低未利用町有地を活用した市街地のUpdate

高浜地区市街地活性化基本計画

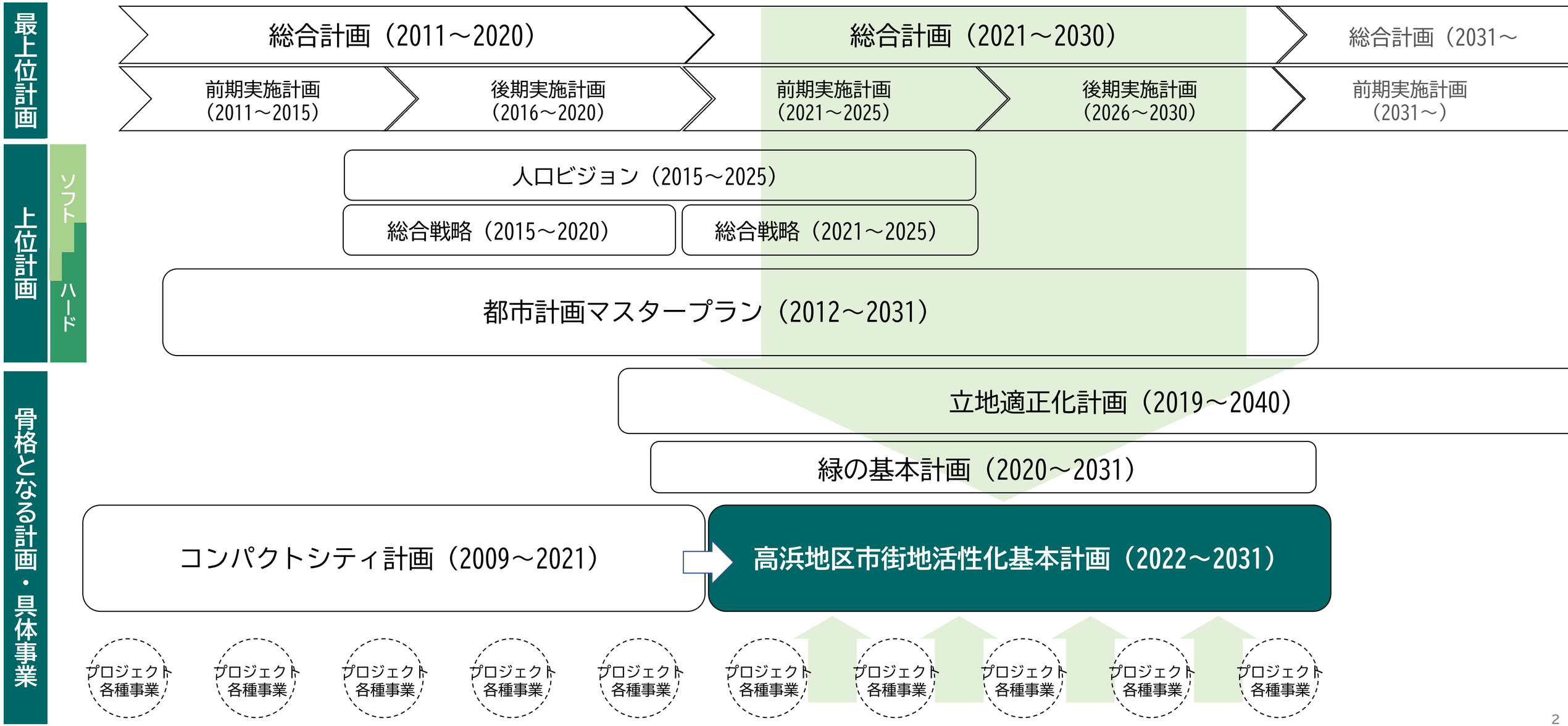
1. はじめに
2. 福井県長期ビジョン
3. 高浜町の動向
4. 課題、将来像、基本方針
5. 計画対象期間、エリア
6. 市街地の骨格・動線
7. 数値目標
8. リーディングプロジェクトの方向性
9. 推進体制
10. 主なスケジュール・事業一覧

令和4年(2022年)4月

高　浜　町

1.はじめに　計画の位置づけ

高浜地区市街地活性化基本計画は、上位計画（総合計画、総合戦略、都市計画マスタープラン）の内容を具体的に示す計画であり、他の骨格となる計画（立地適正化計画、緑の基本計画）との整合を図りながら、高浜地区の市街地を活性化させるための関係計画を整理し、物語を形成するために策定する。また、2009年のコンパクトシティ計画の次期計画としての性質も持つものである。



高浜地区市街地活性化基本計画のベースとなるコンパクトシティ構想の進捗について

平成21年（2009年）よりスタートしたコンパクトシティ構想。
10年余りの取り組みにより、高浜地区では、若狭高浜病院を中核とした地域医療体制の再生、雨水（浸水）対策の強化、都市計画道路の見直し（道路改良・整備）、新庁舎・公民館の建設、図書館・中央体育館の改修、防災力の強化など、安心して暮らせるための社会資本整備、社会教育施設整備に取り組んできた。

一方、二次交通の利便性や快適な住環境の実現、高浜漁港・城山エリアでのにぎわいの創出など、海際・北側のゾーンを中心に、今後取り組むべき課題も残っている。

海際・北側に課題。
二次交通・住環境
漁港・城山エリア再生

コンパクトシティ構想 ゾーニング図 2009年

2.福井県長期ビジョン　2020→2040

（出典）福井県長期ビジョン　2020→2040

①　国内・福井県内の環境変化

- 人口減少・長寿命化（「人生100年時代」の到来）、大交流化（新幹線・高速道路等の交通網整備）、技術革新（-Society5.0- 未来技術の実用化拡大）、価値観の変化（寛容性と多様性）

②　将来イメージ「2040年のふくい」

- ①国土強化の新ネットワーク、②ともに楽しむ千年文化、③全世代の快適人生、④WAKASAリフレッシュエリア、⑤夢がかなう農林水産業、⑥感動につなぐ価値づくり産業

上質なくらしの先駆け
WAKASAリフレッシュエリア

豊かな歴史と自然環境、洗練された美しい町並みに惹かれ、国内外から多くの人が移り住み、未来技術を活用した新しい働き方と質の高い生活を両立する「くらしの先進地」を全県に

〔将来イメージ〕

- **生活圏となった関西からの移住者が増え、関西に通勤・通学しながら嶺南に暮らし、**サイクリングやマリンスポーツ、寺社仏閣巡りなど健康的で文化的な生活を満喫している。
- 美しい自然や悠久の歴史を体感しながら、古民家オフィスでテレワークするなど、**地方暮らしのモデルとして憧れる新しい働き方が実現**している。
- **嶺北に住む人も嶺南の古民家シェアハウス等に滞在**し、豊かな自然や食を日常的に楽しむなど、県民同士の新たな結び付きが生まれている。
- CO2 フリーエネルギーの先進県として、エネルギー循環型ハウスや自動運転車、遠隔医療など**最新技術が集積するスマートタウン**が県内各地につくられ、多くの若者や移住者が快適に暮らしている。

③　地区別の将来像「嶺南地域」

- 若狭湾の自然景観・歴史遺産、海里の幸など観光資源が豊富
- 原子力発電所が立地、原子力・エネルギーの研究開発や人材育成に取り組む
- 北陸新幹線全線開業により小浜ー京都が19分で結ばれ、関西と生活圏に

京都・大阪との近接性、自然や歴史・文化・食の魅力、安心の子育て環境を活かし、嶺南から関西に通勤し、創造的に働きながら文化的・健康的に過ごせる**くらしの先進地「WAKASAリフレッシュエリア」**

スマートエリアの整備、デコミッショニング（廃炉）ビジネスの育成、新たな試験研究炉を核とした研究・人材育成の拠点化や産業創出により、**人や企業が集まる嶺南Eコーストエリア**

新幹線や敦賀港のクルーズ船からの外国人が三方五湖や鯖街道、人道の港、漁家民宿など嶺南の自然と歴史を楽しむ**インバウンドリゾートエリア**

人々の手で守り継承されてきた伝統芸能・祭り、寺社仏閣、食文化などを学び、交流する**伝統文化を学び体験するエリア**

嶺南地域の将来イメージ（2040年）

嶺南Eコースト計画

- 基本理念
  嶺南地域を中心に、原子力をはじめ再エネを含む様々なエネルギーを活用した地域経済の活性化やまちづくりを目指すことにより、人・企業・技術・資金（投資）が集まるエリアの形成を図る

E＝Energy,Economy,Ecology,Expand,Exciting,Evolution…

４つの基本戦略と８つのプロジェクト

Ⅰ 原子力関連研究の推進および人材の育成

- 国内外の研究者等が集まる研究・人材育成拠点の形成
- 新たな試験研究炉を活用したイノベーションの創出、利活用の促進

Ⅱ デコミッショニングビジネスの育成

- 廃止措置工事等への地元企業の参入促進、製品・技術の供給
- 解体廃棄物の再利用を進めてビジネス化を推進

Ⅲ 様々なエネルギーを活用した地域振興

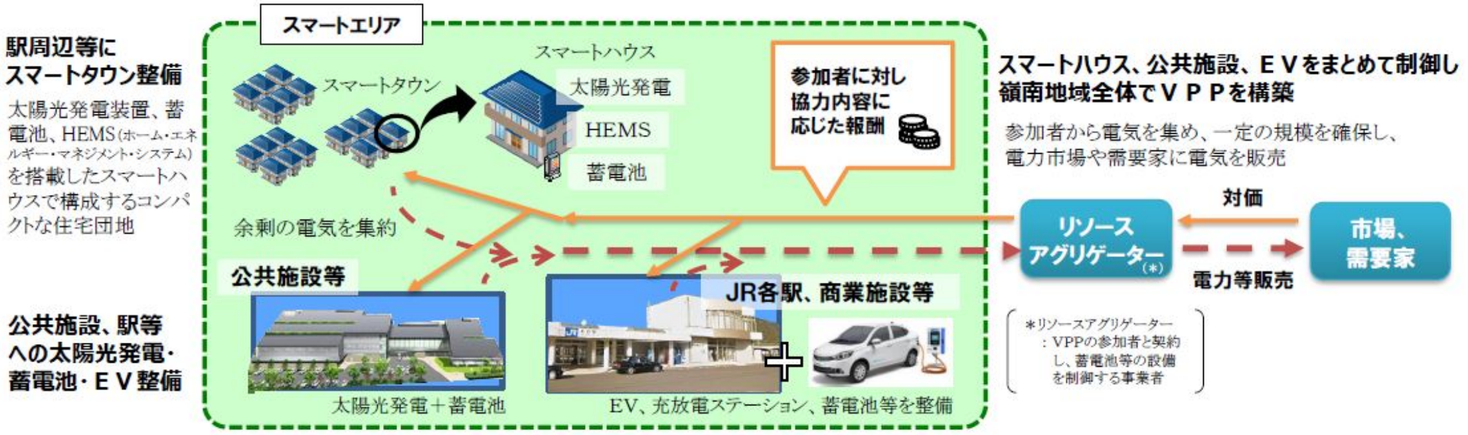
- 嶺南の市町と連携し、スマートエネルギーエリア形成を推進
- 原子力や再生可能エネルギーを幅広く学ぶ機会を提供し、人の交流を促進

Ⅳ 多様な地域産業の育成

- 技術の高度化、地元企業等への技術移転による次世代農林水産業を実現
- 地元企業支援や企業誘致により、多様な産業を育成

スマートエネルギーエリア形成

- 目指す将来像
  嶺南地域に、便利で災害にも強く、環境にもやさしいスマートエネルギーエリアを創出。地域全体の付加価値が高まり、文化的・健康的に暮らせるライフスタイル「WAKASAリフレッシュエリア」の実現に繋げる



＝施策の方向性＝

- 原子力に加え、地域全体で再エネ、省エネを推進し、**CO2フリーのスマートエリアの形成**を目指す
- 都市部で行われているデベロッパー等による大規模なスマートコミュニティ開発ではなく、人口が少なくても持続可能な福井県独自の仕組みを構築していく
- **CO2フリーの新たなライフスタイルを提案できるまちづくりを進め、人や企業が集まる地域となることを目指す**。VPPシステムを核とした嶺南地域独自のスマートエリア構築に向けた施策を進めるとともに、再生可能エネルギーや水素エネルギーの利活用を促進していく

（出典）嶺南Ｅコースト計画　令和2(2020)年3月

1990年まで人口増加。（都市構造も1985年（昭和60年）に概ね現在のカタチに）
2060年まで一貫して人口減少。その後も続くものと推察。
中でも生産年齢人口の減少が顕著。

40年後、2060年には
人口がほぼ半分に！
でも、老年人口はほぼ横ばい！
少子化、高齢化が増々深刻化！

※総人口には「年齢不詳」を含む。

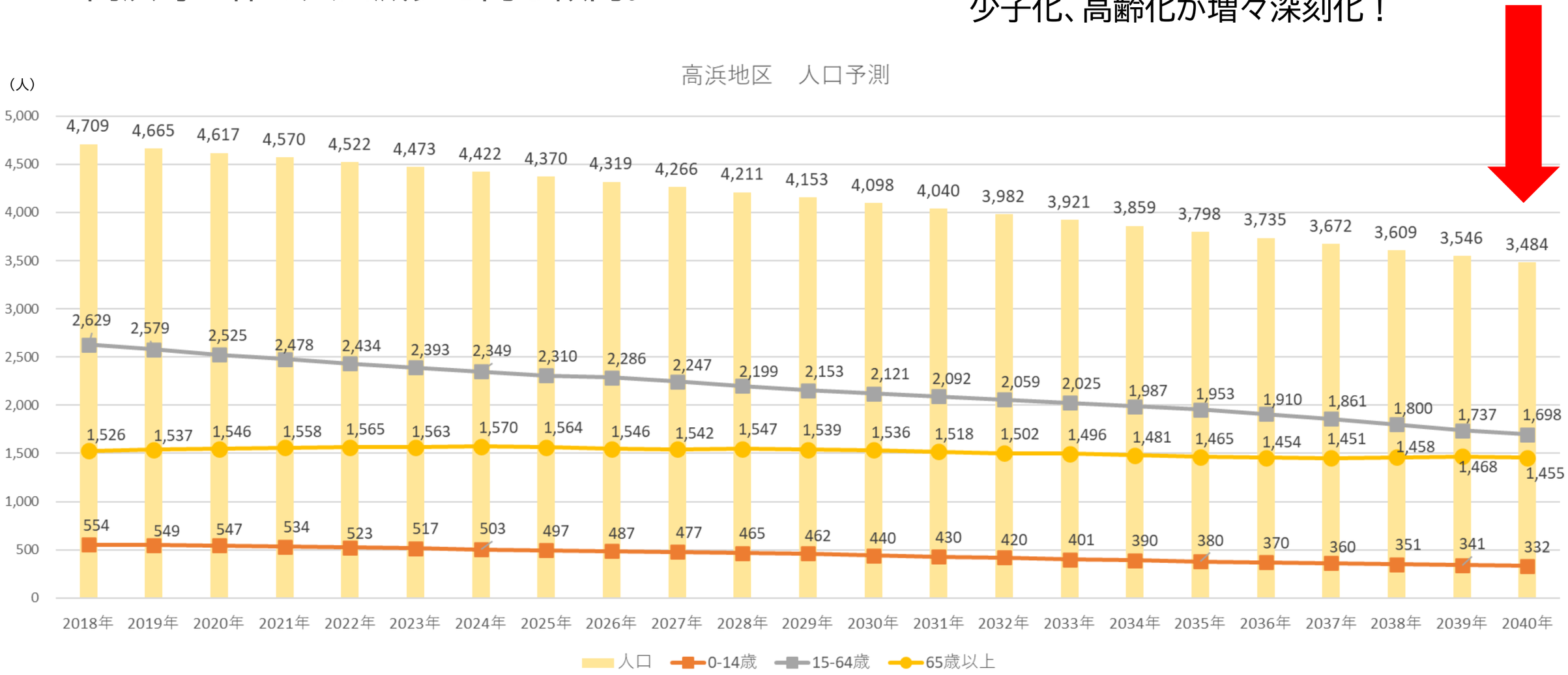
資料：実績値は国勢調査（各年）、推計値は社人研推計準拠による

高浜地区はどうなのか？
2018年～2040年の人口推計を見てみよう。

※2018年の住民基本台帳データより推計（福井県立大学　丸山准教授）

⇒高浜町全体の人口減少と同じ傾向。

約20年後、2040年には、人口が26%減少！
生産人口は、35%減少
子どもは、40%減少！
でも、老年人口はほぼ横ばい！
少子化、高齢化が増々深刻化！



1963年
昭和38年

国道27号の開通前。
旧丹後街道が
国道だった時代。

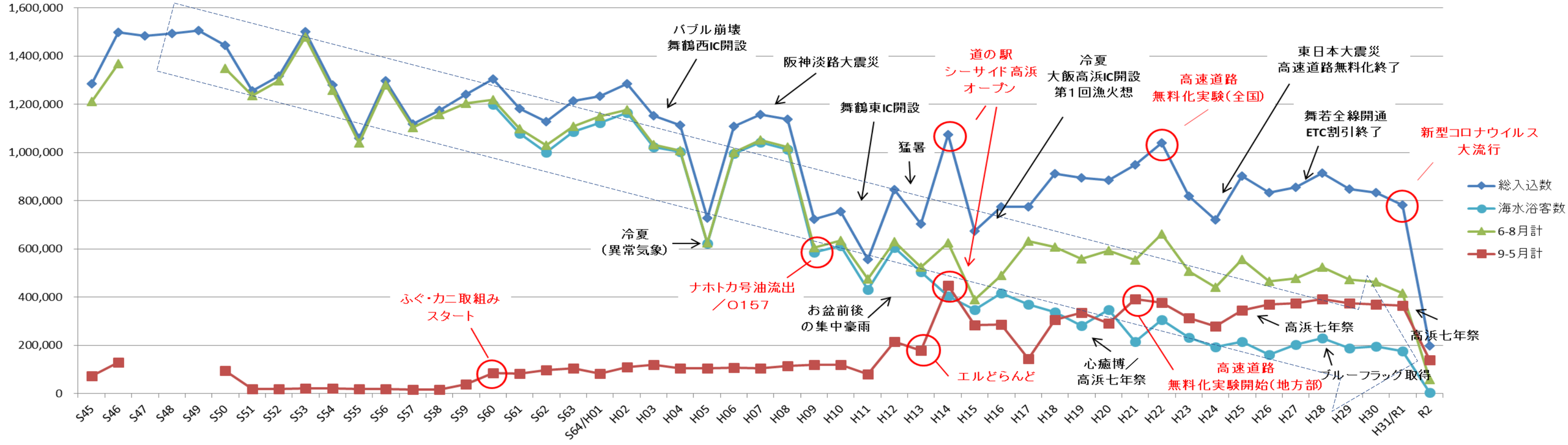
わずか22年間で
市街地が拡大した。

1985年
昭和60年

国道27号開通
南側へ市街地が広がる
（現在のカタチ）

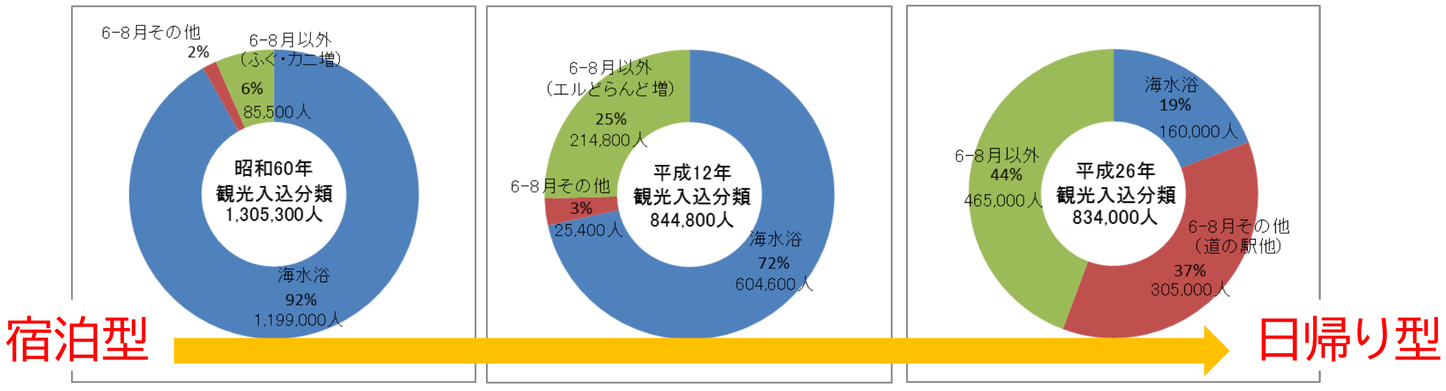
今後40年先までは確実に人口減少が続くと予測されている高浜町。
市街地をどのように誘導できるかは、持続可能なまちづくりを支える重要な骨格となる。

S46年頃をピークに海水浴客数は減少。150万人⇒20万人（87%減）
S60年、ふぐ・カニの取組みで冬場（通年）の観光がスタート。
H14年、道の駅OPENで通年型へ少しシフト。宿泊型から通過型（日帰り型）へ移行している。



（出典：高浜町統計資料）

S60年海水浴は9割。
H12年に7割、
H26年には2割に減少



新型コロナウイルス感染症拡大により、人々の外出機会は激減した。その一方、比較的「密」を避けられるレジャーであるキャンプが脚光を浴び、2020年の流行語大賞には「ソロキャンプ」が９位に入るなど、キャンプに対する関心、ニーズの高まりがみられる。

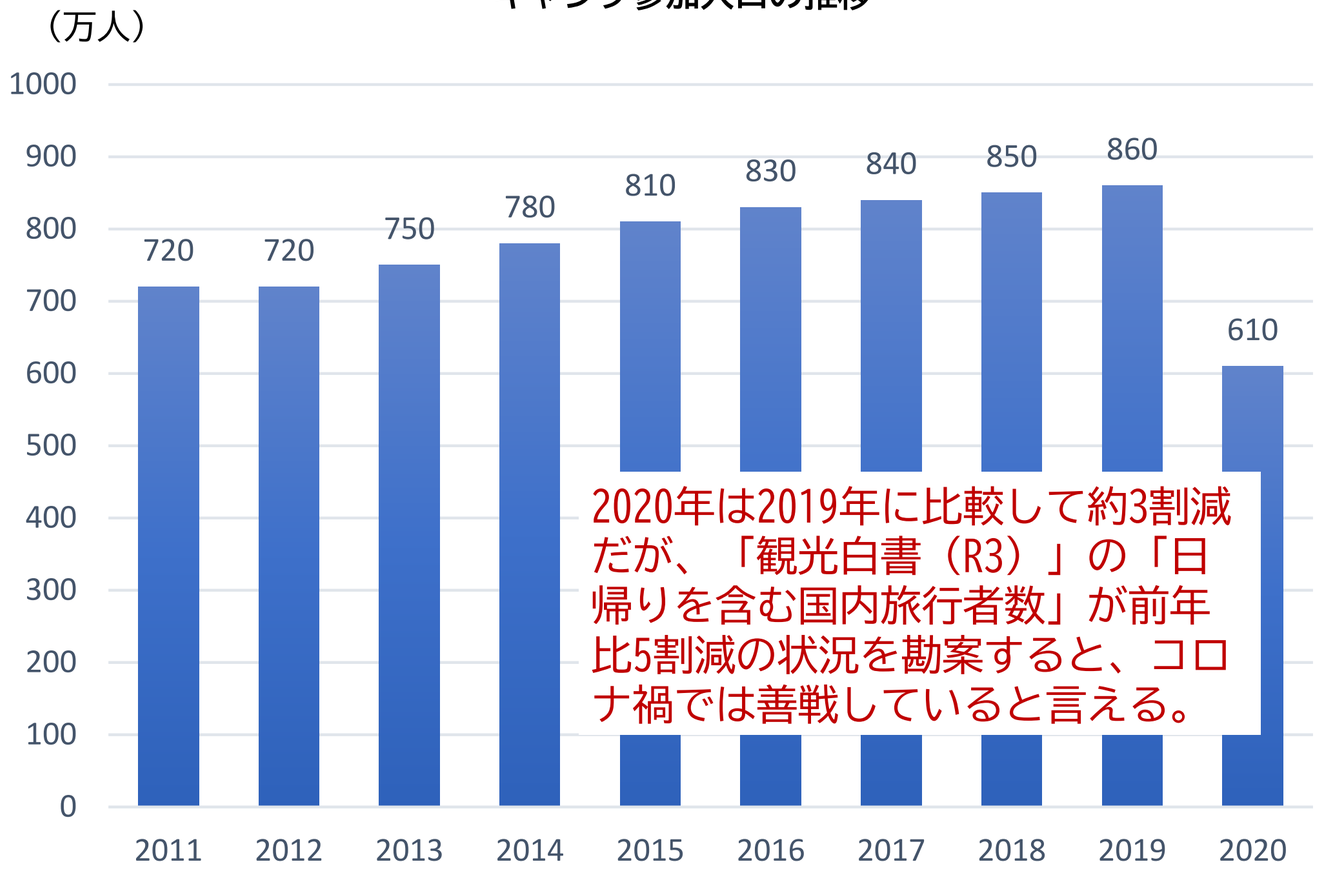
「現代用語の基礎知識」選 2020ユーキャン新語・流行語大賞 年間大賞＆トップ10

＜年間大賞＞
■3密

＜トップ10＞
■愛の不時着
■あつ森（あつまれ どうぶつの森）
■アベノマスク
■アマビエ
■オンライン◯◯
■鬼滅の刃
■GoToキャンペーン
■3密
■ソロキャンプ
■フワちゃん

（出典：https://www.u-can.co.jp/company/news/1209908_3482.html）

キャンプ参加人口の推移

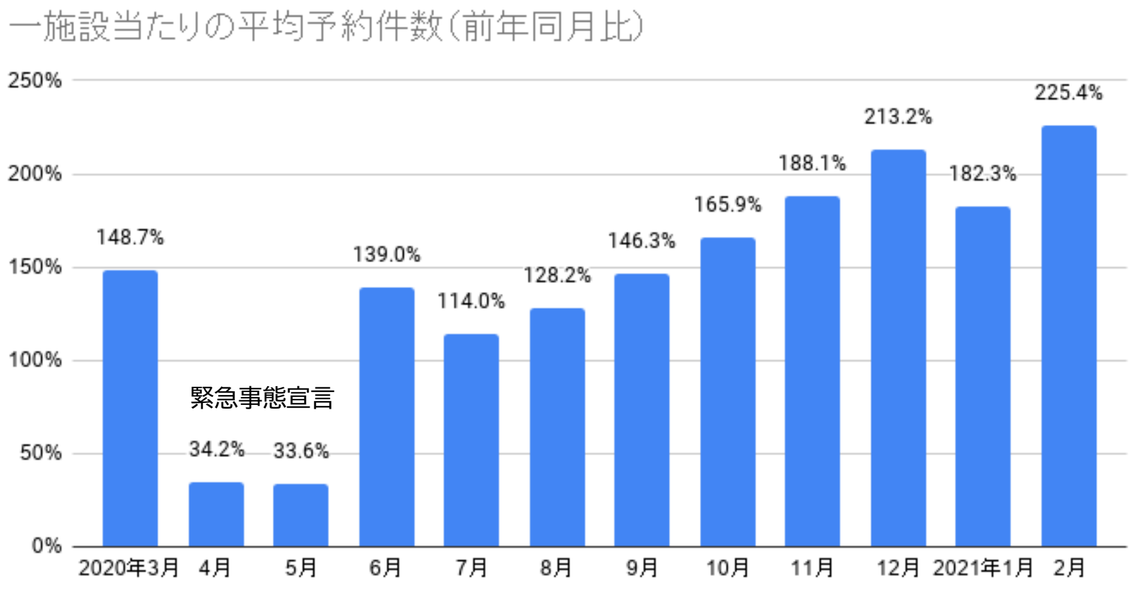


（出典：オートキャンプ白書2021）

コロナ禍でも好調のキャンプニーズ
テントなどの性能も向上、
ソロキャンプ人気で冬場でも高い前年比率

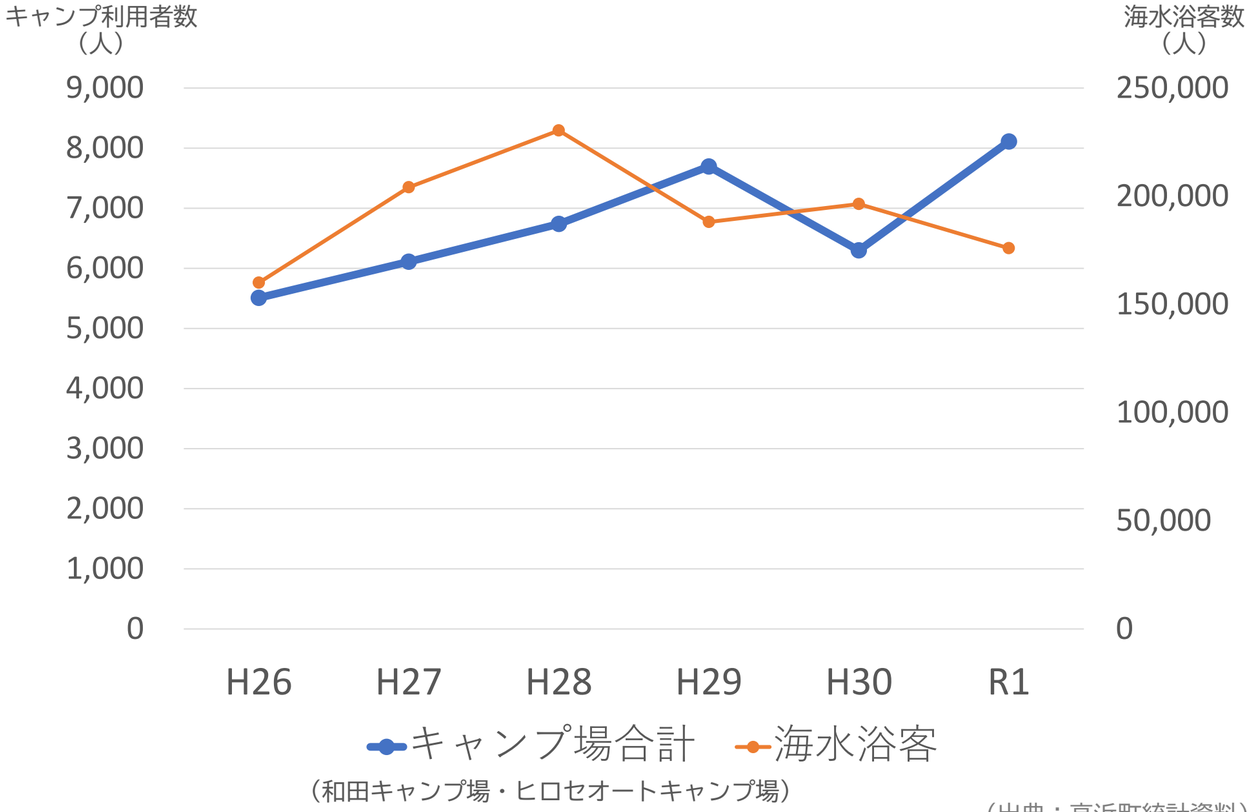
海水浴客が落ち込む中でも、
町内のキャンプ利用者は増えている！

キャンプ場検索・予約サイト「なっぷ」
（2020年3月～21年2月）における動向



（出典：やまとごころ）

高浜町キャンプ場利用者数と海水浴客数



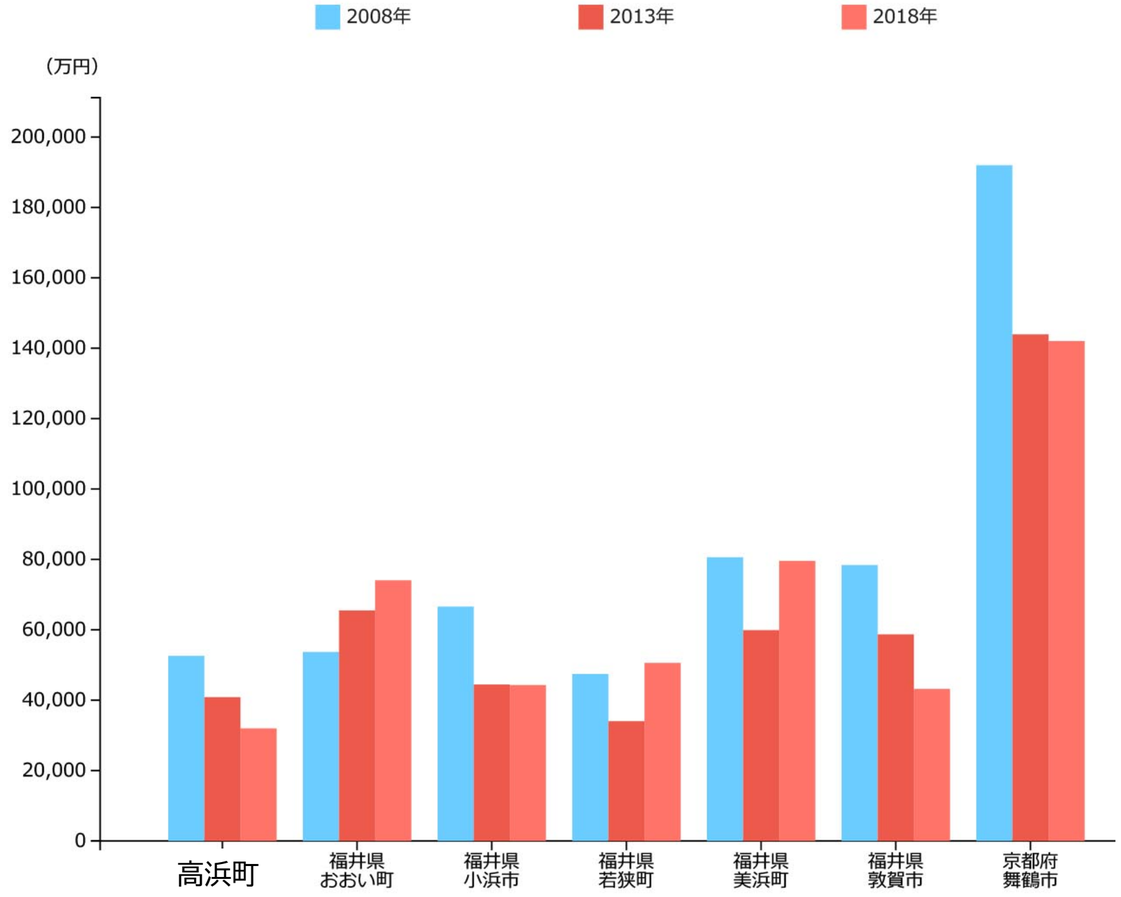
（和田キャンプ場・ヒロセオートキャンプ場）

（出典：高浜町統計資料）

（出典:RESAS）

海面漁獲物等販売金額（総額）

指定地域：福井県高浜町

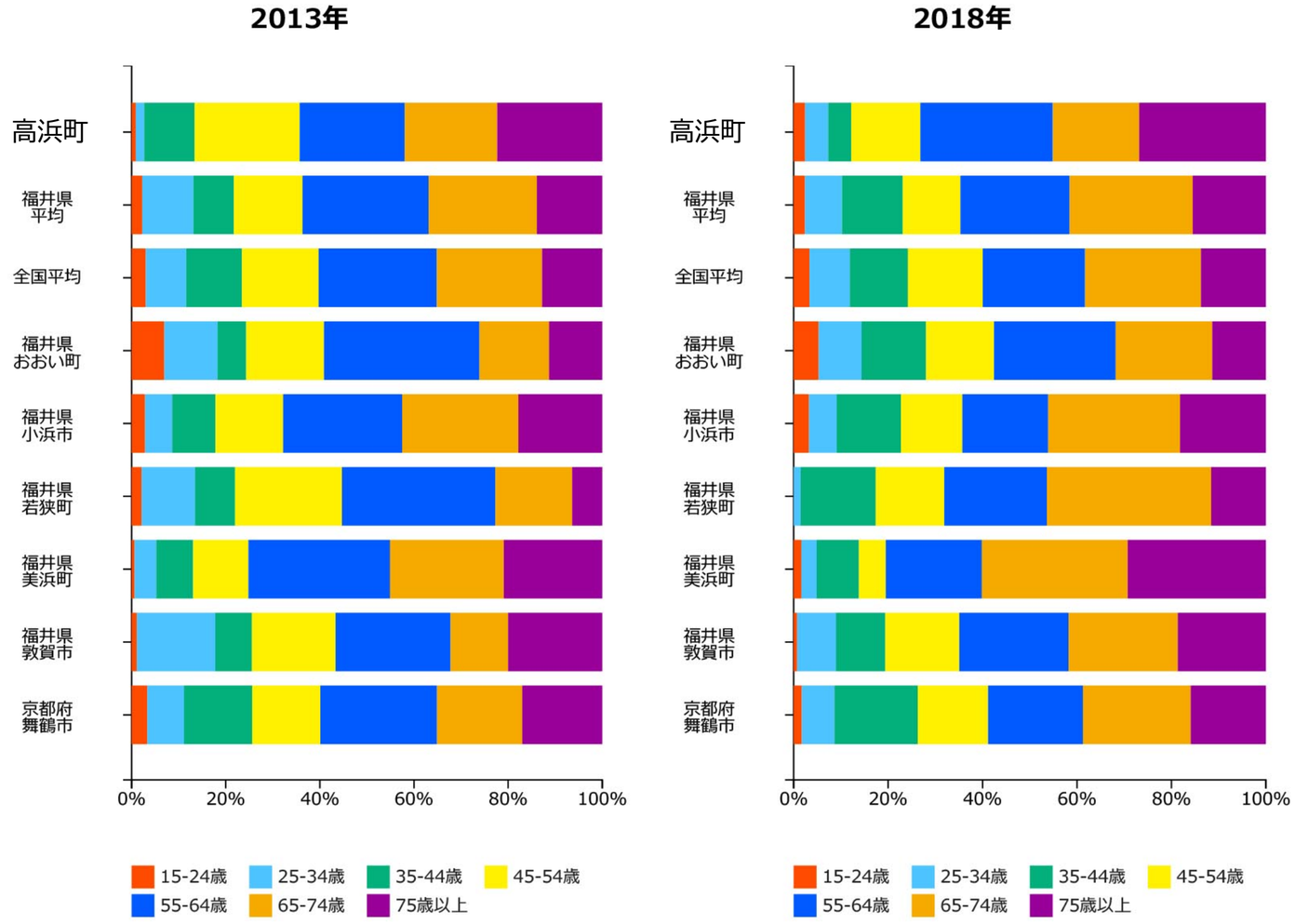


高浜町の漁業販売額は減少している。
若狭地域では、おおい町、美浜町の販売額が多い。

海面漁業就業者の年齢構成

指定地域：福井県高浜町

性別：総数



高浜町漁業従事者は、近年急速に高齢化しており、若手漁師の育成が緊急の課題といえる。

漁獲量の6～7割を自営定置網漁（大型）に依存しており、**定置網が漁協経営の柱**になっている。定置網は回遊性資源に依存するため、漁獲が不安定でまた天候にも左右されるため、リスクが高いといえる。一方、**定置網での魚単価は低調傾向**であり、この経営基盤の付加価値化をどのように図っていくかなど課題がある。

漁業種類			H29			H30			H31(R1)			R2			最近4年平均		
			量	金額	単価	量	金額	単価	量	金額	単価	量	金額	単価	量	金額	単価
			(kg)	(円)	(円/kg)	(kg)	(円)	(円/kg)	(kg)	(円)	(円/kg)	(kg)	(円)	(円/kg)	(kg)	(円)	(円/kg)
定置(大型)			380,724	168,978,653	444	415,325	158,164,689	381	364,351	139,249,346	382	378,416	181,781,303	480	384,704	162,043,498	421
定置(小型)			73,677	43,222,347	587	70,018	37,096,311	530	64,658	44,207,654	684	78,201	48,602,697	622	71,639	43,282,252	604
漁船漁業	刺網		42,101	28,337,000	673	47,200	32,281,000	684	46,840	33,703,000	720	30,440	22,446,000	737	41,645	29,191,750	701
	延縄		13,951	23,968,196	1,718	10,727	14,593,195	1,360	12,410	15,277,157	1,231	10,815	13,749,644	1,271	11,976	16,897,048	1,411
		若狭グジ	4,722	13,899,804	2,944	4,233	13,860,805	3,274	5,020	15,656,843	3,119	4,425	13,175,356	2,977	4,600	14,148,202	3,076
	その他の釣漁業		1,411	1,253,000	888	2,051	1,786,000	871	587	569,000	969	924	745,000	806	1,243	1,088,250	875
	その他の漁業		53,284	59,407,000	1,115	53,390	63,829,000	1,196	52,772	70,219,000	1,331	48,904	49,678,000	1,016	52,088	60,783,250	1,167
採貝藻	サザエ		10,117	5,648,000	558	8,042	5,222,000	649	7,663	4,786,000	625	8,957	6,235,000	696	8,695	5,472,750	629
計			571,451	341,310,000	597	603,647	322,480,000	534	547,484	320,243,000	585	552,322	330,652,000	599	568,726	328,671,250	578
養殖業	トラフグ		11,700	25,900,000	2,214	7,700	17,750,000	2,305	14,500	31,680,000	2,185	12,900	27,100,000	2,101	11,700	25,607,500	2,189
	マダイ		6,000	6,500,000	1,083	5,500	5,650,000	1,027	3,000	3,000,000	1,000	5,250	5,625,000	1,071	4,938	5,193,750	1,052
	イサキ		440	700,000	1,591			#DIV/0!	440	660,000	1,500	1,750	1,750,000	1,000	658	777,500	1,183
	マハタ		2,400	7,200,000	3,000	0	0	#DIV/0!	1,600	3,600,000	2,250	1,120	2,520,000	2,250	1,280	3,330,000	2,602
計			20,750	40,310,000	1,943	13,450	23,650,000	1,758	23,500	38,940,000	1,657	21,020	36,995,000	1,760	19,680	34,973,750	1,777

（出典：高浜町統計資料）

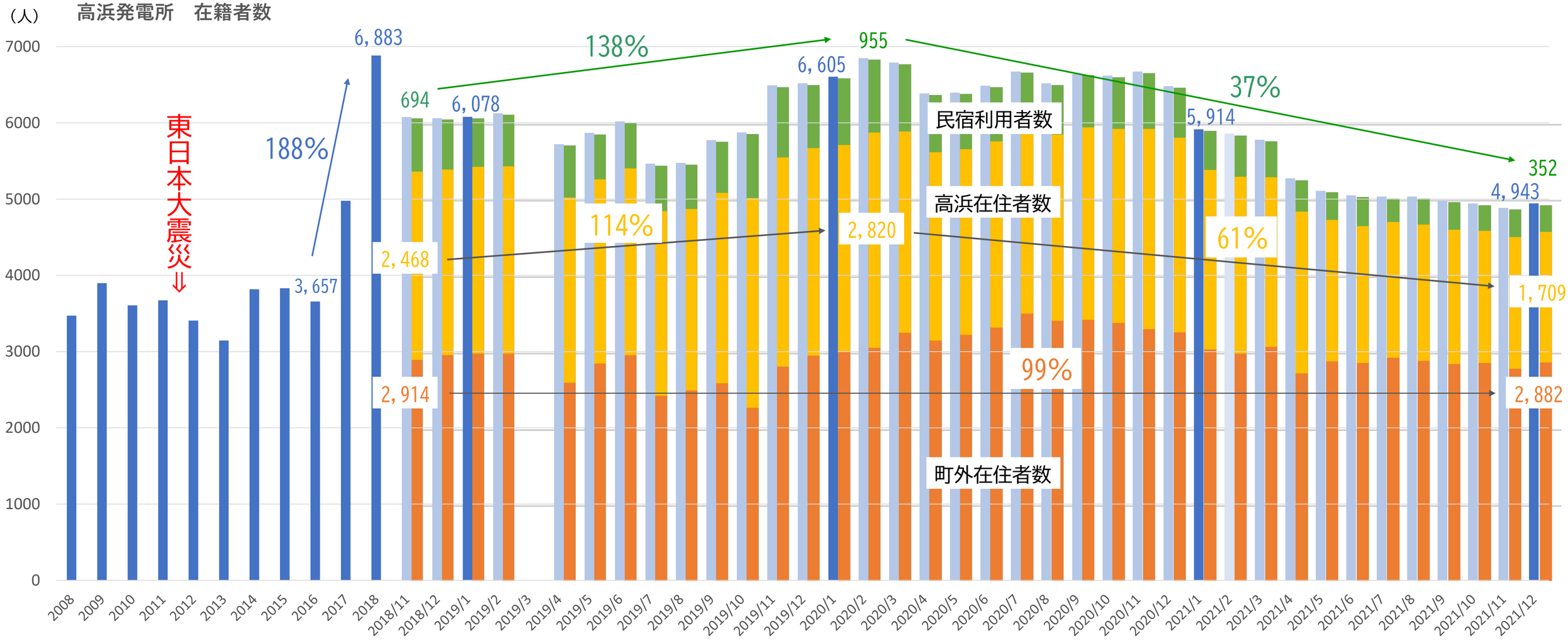
大きな産業の登場と消失

1974年　高浜原子力発電所１号機運転開始
⇒2034年　廃炉

1975年　高浜原子力発電所２号機運転開始
⇒2035年　廃炉

1985年　高浜原子力発電所３・４号機運転開始
⇒2045年　廃炉

高浜発電所の1日の在籍者数は、2016年以降急速に増加し、2021年1月以降減少傾向が続く。
特に民宿利用者で顕著な傾向。



民宿利用者数	694	650	632	670		680	586	594	596	579	667	839	920	830	874	955	879	749	718	706	683	653	679	677	728	656	512	539	467	411	360	381	311	344	359	334	360	352
町内在住者数	2,468	2,437	2,445	2,457		2,426	2,409	2,444	2,418	2,380	2,499	2,746	2,742	2,718	2,708	2,820	2,637	2,466	2,432	2,442	2,472	2,434	2,518	2,542	2,625	2,544	2,349	2,318	2,222	2,119	1,853	1,790	1,774	1,783	1,759	1,733	1,724	1,709
町外者数	2,914	2,975	3,001	2,997		2,617	2,872	2,980	2,447	2,516	2,607	2,289	2,828	2,969	3,023	3,076	3,273	3,170	3,246	3,336	3,520	3,430	3,444	3,401	3,319	3,281	3,053	2,999	3,088	2,740	2,895	2,878	2,946	2,904	2,862	2,874	2,801	2,882

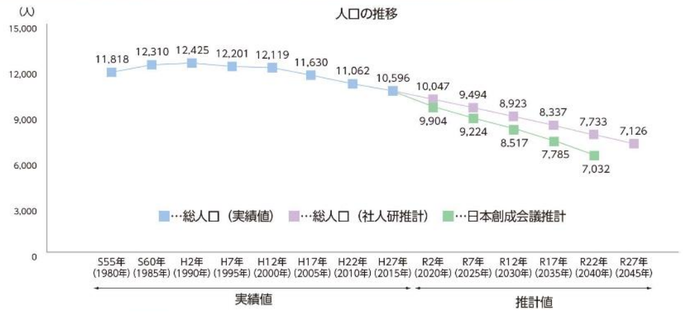
（出典：高浜町統計資料）

在籍者総数　民宿利用者数　高浜在住者数　町外在住者数

高浜町を取り巻く概況

人口減少は今後も継続し、本計画期末の令和12（2030）年には8,923人、
高齢化率が32%と見込まれています。

人口



出典：実績値は国勢調査各年（1980～2015年）
推計値は国立社会保障人口問題研究所（H30（2018）年推計）、日本創成会議（H26（2014）年5月推計）

社会情勢

- 持続可能な社会づくりを『誰一人取り残さず』に進める時代へ
- 一人ひとりが尊重され、誰もがもっと『自分らしく活躍できる』時代へ
- 様々な『技術革新』が、人々の生活に『劇的な変革』をもたらす時代へ
- 大規模自然災害や感染症等のリスクへの『対応力』を培う時代へ
- 人口減少社会で持続可能な『自治の姿』に転換する時代へ

まちづくりの主な課題

[保健・医療・福祉・防災]

- 地域医療体制の堅持を図るとともに、住民活動や協働の推進に向け、多様な人の参画を促す仕組み等が求められます。

[産業振興・観光振興]

- 地域資源を活かし、住民・行政・事業者等の多様な主体との関わりで産業や観光の新たな魅力を創出していくことが求められます。

[住環境整備]

- 安全・快適な住環境づくり、高浜漁港エリアの再生をはじめとする地場産業の活性化と観光拠点形成による賑わいの創出が求められます。

[環境保全]

- 「国際環境認証ブルーフラッグ」をはじめとする官民一体となった環境保全活動の継続や海・里山等の環境保全を通じて地域が活性化する仕組みが求められます。

[子育て・教育・協働]

- 地域で安心して子育てができ、学びや多様な活動を誰もが生涯を通じて楽しめる環境をさらに充実させることが求められます。

基本構想

高浜町の10年後の将来像

将来像を「まちやひとの姿」と「人口」から描きます。

まちやひとの姿

くるむ つなぐ かがやく
～自然とともにある暮らし 若狭たかはま～

「まちやひとの姿」にこめたみんなで共有したい思い

青葉山や里山の緑、青い海、白く長い砂浜などの豊かな自然。先人から受け継いできた自然とともにある今の暮らしを誇りに感じ、その良さを一人ひとりが守り高めて、将来へ伝えていきたい。

私達は、人や地域のつながりや支えあいなどに暮らしの安心や住み心地のよさを感じています。これからも、誰もが、互いを尊重し認めあい、心豊かで健やかに、人や地域のあたたかさにくるまれ、そして、次の誰かをくるんでいく、そんな多様な関わりを育み、つないでいきたい。

いくつになっても学びを通じて、誰もが自分らしく活躍でき、そして、自然環境や歴史、食などの“たかはまの魅力”を活かした、にぎわいにあふれ、交流盛んな、活力に満ちたまちを目指していきたい。

人口

町の将来人口
（令和12（2030）年度）
9,100人

「高浜町まち・ひと・しごと創生ビジョン」で掲げた「将来展望人口」令和22（2040）年8,300人の人口維持を踏まえて設定。

協働と行政経営

将来像の実現に向けた3つの基本要件

住民主体のまちづくり

今暮らす私達、将来世代、さらには高浜町に関わる町外の人も含めたみんなが、それぞれに感じている高浜町への関心や愛着を大切にし、まちづくりを「我がごと」として捉え、自分らしい関わりによって、より良いまちをつくっていくために行動していくこと。

協働のまちづくり

人や地域が多様につながり合うことは、暮らしの安心感、住み心地の良さ、生活の質の向上へとつながっていきます。

まちをより良くしようとする多様な活動を通じて、誰もが生きがいを持って自分らしく活躍できる地域を目指すとともに、持続可能な地域としていくため、多様な行動主体が連携・協力する「協働のまちづくり」を進めていくこと。

持続可能な行政経営

政策形成能力の強化や広域での連携強化、多様な主体との協働、また、新しいテクノロジーの活用等によって効率的で効果的な行政経営を進めること。

住民ニーズを踏まえつつ、限られた資源の有効活用と適切な進行管理等により、確実な行財政運営を行うこと。

各行動主体がより活動しやすい環境をつくるとともに、各主体の活動の自立を支援するなど「協働のまちづくり」を進めること。

1 地域でくるむ 暮らしよさ実感プロジェクト

・今住んでいる人をはじめとして、誰もが「地域の人との関わり」を感じながら、安心や住み心地のよさをより実感できるプロジェクト。

主な取り組み
●子育て世代の負担軽減 ●認定こども園の整備 ●新たな基幹公園の整備 ●社会福祉複合施設の整備
●住民主体の健康まちづくり活動の推進 ●地域医療の環境整備・地域医療の担い手育成 ●公共交通の利便性向上

2 多様な関わりでつなぐ 新たな連携・交流促進プロジェクト

・「自然とともにある暮らし」や「人や地域のつながりや支え合い」を保ちつつ、地域資源を活かして多様な関わりの創出や協働によるまちづくりを推進するプロジェクト。

主な取り組み
●ブルーフラッグ認証取得と環境教育推進 ●薬草産地化推進 ●交流・関係・活躍人口の交流促進
●協働のまちづくりの推進 ●地域活動団体への支援 ●学校地域の連携促進 ●児童生徒のまちづくり参画

3 魅力を高めてかがやく 賑わい創出・産業再生プロジェクト

・地域資源を磨くことや地域の企業と人材のポテンシャルを高めること、地場産業の活性と観光拠点形成による賑わいの創出など通じて、未来につながる人づくり、産業づくりを推進するプロジェクト

主な取り組み
●6次産業施設の整備 ●漁港施設の更新支援 ●城山荘・城山公園の再整備 ●大規模園芸ハウスの就農・営農支援
●産業分野の人材育成・多様な働き方推進 ●創業支援・サテライトオフィスの誘致

高浜地区のまちづくり活動団体へのヒアリングの概要

【地区の課題】

○ 閉鎖的な気風

・高浜地区は昔から住んでいる人が多く、新しいことや変化に対する拒否反応がある。
・昔ながらのコミュニティが強く新しい人は入りにくいため、住宅地としてのニーズは低い。
・新たに人を受け入れるためには、受け入れる環境づくりやコーディネーターの存在が重要。

○ 地区の回遊性が乏しい／限定的である

・中町商店街、旧丹後街道の周遊性が必要。
・夏季以外の宿泊のニーズが不足している。　⇒　空き家の有効活用。（ゲストハウスなど）

○ 住民、生業の担い手の高齢化

・一人暮らしの高齢者世帯が増えている。
・地元の水産業者の高齢化や担い手不足などが進んでいる。
・若手のプレーヤーの育成が必要。　⇒　高浜明日研究所への期待（関係人口の拡大、プレーヤーの育成を担う役割など）

【公有地活用について】

（旧役場跡）・様々な世代をターゲットとしたアクティブな活動ができる公園がまちなかにあると良い。
・サークル団体が拠点とすることができる空間があると良い。
（城山公園）・生活感がある空間とリゾート要素のある空間づくりをして欲しい。
・観光拠点としての充実、強化。
・城山荘、6 次化産業施設は、高浜地区の新たな賑わい創出の核として期待。
（各ゾーン）・塩土：海沿いの賑わいづくり（海釣り、BBQ など）
・事代：新しい人の流れを創出
・若宮：海沿いの賑わいを周辺に波及

4.課題 将来像 基本方針

【これまでの状況】

【コンパクトシティ計画】2009 年度～

平成 21 年（2009 年）よりスタートした高浜地区のコンパクトシティ構想。10 年余りの取り組みにより、高浜地区では、高浜病院を中核とした地域医療体制の再生、雨水（浸水）対策の強化、都市計画道路の見直し（道路改良・整備）、新庁舎・公民館の建設、図書館・中央体育館の改修、防災力の強化など、安心して暮らせるための社会資本整備、社会教育施設整備に取り組んできました。

【都市計画マスタープラン】2012 年度～

コンパクトティ計画を含め、高浜全体の都市像を描く計画です。
⇒医療・福祉・商業などの都市機能の集積
⇒公園・雨水対策・地域防災力の強化
⇒住環境整備・まちなか居住・コミュニティづくりの推進
⇒海を活かした賑わい・活力の創出　など

【立地適正化計画】2019 年度～

高浜地区・和田地区：都市計画区域内の未来の市街地づくり計画。
⇒空き家、密集市街地、主要道路、公園
⇒歩行空間、まちなか居住、子育て、健康まちづくり、地域交通
⇒産業・観光振興、景観、まちの魅力発信

【緑の基本計画】2020 年度～

高浜町全体の緑・公園等の計画。
高浜・和田・青郷・内浦の４つの地区別方針を策定。

【新たな潮流と国や県のビジョン】

○北陸新幹線延伸（2024 年春敦賀延伸・2046 年大阪全線開通予定）
○福井県長期ビジョン 2020→2040：WAKASA リフレッシュエリア「くらしの先進地」
　関西の生活圏、テレワークなど新しい働き方、最新技術が集積するスマートタウン
○嶺南 E コースト計画：「RE100」「VPP」技術を生かしたスマートエリアの構築
○Society5.0/SDGs/DX（デジタルトランスフォーメーション）**/ シェアリングエコノミー**
○関係人口・ワーケーション・新しい生活様式の到来

人口減少・少子化・高齢化・海水浴客の減少・産業再生

【高浜町総合計画】2021 年度～ 2030 年度

くるむ　つなぐ　かがやく
～自然とともにある暮らし　若狭たかはま～

コンパクトシティ計画を Update
国や県の新たな流れと連携（広域連携）
新たな技術や社会の動き（未来）

【将来像】

まちの資源を活かした公園のようなまち　高浜

まちの資源（都市基盤、新規整備施設、農村漁村、人材および人的ネットワーク等）が有機的につながり、デジタル技術等を活用したスマートで質の高い市街地が形成され、あらゆる世代の人々にとって居心地が良く、いきいきと生活できる場所となることで、自然と人、人と人、人とまち、ひと・もの・こと等が連携・融合した「居心地の良い、公園のような公共空間」となることを目指します。

【基本方針】

1. ひと･もの･ことが循環する緑のコンパクトシティへ
　（都市機能集約系）
2. つながりを感じ“利便性”と“快適性”のある
　歩きたい健康な市街地（まちなか暮らし系）
3. “賑わい”と“楽しさ”あふれる海辺（にぎわい･景観系）

高浜地区市街地活性化基本計画　概要

高浜地区の課題

●暮らしの向上が必要（利便性や快適性）
・商業機能の維持や防災面での改善、福祉の拠点づくりなどによる住環境の改善や質的向上
・新たな移動手段の確保など、誰もが暮らしやすいと感じることができる環境づくり

●問題のさらなる深刻化に備えることが必要
・既に顕在化している人口減少、高齢化、高齢者の孤立化、空き家の増加、地域コミュニティの喪失といった問題が、さらに深刻化していく状況に対し、今から備えることが必要

●まちなかの「にぎわい」の創出が必要
・商店街振興、並びに新たな生活様式を志向する住民の受入れ等を通したにぎわいづくりが必要
・当該エリアで事業（商売等）を展開しようとするプレイヤーの受け皿づくり
・年間を通じて楽しめる空間や環境づくり（日帰り観光から滞在型観光）
・地区を代表する商品づくり（ブランド化）
・地域に根付く歴史や文化の発信を通じた観光振興や郷土愛の醸成

●新たな人を受け入れる環境づくりが必要
・新規居住者や新たなプレーヤー（事業をはじめたい人など）を受け入れる空間や仕組み、土壌が必要
・田舎暮らし、二地域居住等を志向する人、観光客や関係人口など様々な人を受け入れる準備が必要

●様々なプレイヤーとの連携／役割分担を図っていくことが必要
・プレイヤー同士が互いに協力、連携が図れるような場づくりや仕組みづくり等が必要

将来像

まちの資源を活かした公園のようなまち　高浜

基本方針

1. ひと･もの･ことが循環する緑のコンパクトシティへ（都市機能集約系）

高齢者や子ども、子育て世代、若者など、誰にとっても居心地がよく、いきいきと利用・活躍できる施設や公園等を整備し、ひと･もの･ことが循環する“居心地のよい公共空間”に包まれた緑豊かな市街地形成を図ります。

2. つながりを感じ“利便性”と“快適性”のある歩きたい健康な市街地（まちなか暮らし系）

域内交通の利便性を高め、車がなくても移動しやすい町を形成するとともに、市街地内のつながり（回遊性、滞在性）を向上させることにより、暮らしの利便性を高め、生活者が快適と感じる市街地の価値向上を図り、緑豊かで歩きたくなる健康な町を目指します。

3. “賑わい”と“楽しさ”あふれる海辺（にぎわい･景観系）

高浜漁港、城山エリアの再生を中心に、商業・サービス機能や景観・町並み等の資源を活用し、海辺のライフスタイルや漁業の魅力と集客力を高めていくとともに、既存の商店街や交流施設と連携したイベント等により、出店者にとっても魅力ある町を目指す。また、城山公園、高浜七年祭等の自然や文化を感じられる事業と連携した取り組みによって、文化・観光・産業面で個性が輝ける市街地形成を図ります。

高浜地区の課題解決に向けた取り組みの方向性・リーディングプロジェクト

1）住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする　子育て福祉

住民の移動手段の確保、居住空間の防災性の向上、福祉の拠点整備、高齢者の見守りや居場所づくり、子どもの健やかな成長を促す場所づくりや子育て支援などについて、地域と連携しながら共に進めていく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》
・社会福祉施設（福祉の拠点）の整備
・高浜町立認定こども園新設
・（仮称）高浜公園の整備
・新たな移動手段の検討（グリーンスローモビリティ等）
・密集市街地の改善（防災道路の整備等）

■リーディングプロジェクト
① 福祉拠点の創出と公園づくりで、「歩きたい」を Update
② 回遊性を生む移動サービス（シェアリングエコノミー）で、「交通」を Update

2）定住人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進める　暮らし定住

町が有する豊かな自然環境を活かしつつ、新たなライフスタイル／居住ニーズに対応したスマートで質の高い住環境を整備するとともに、緩やかな地域との関わりをもちつつ、新たな地域の担い手として期待される関係人口の増加に向けた取り組みを進める。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》
・スマートタウンモデルの整備（旧若宮園）
・まちなか交流館の活用
・新たな観光スタイル、働き方、暮らし方の推進（ワーケーション等）

■リーディングプロジェクト
③ スマートな暮らし方。次世代技術で、「暮らし」を Update
⇒スマートタウンモデル整備

3）第 1 次産業従事者／事業者の活動の場（拠点）をつくる　地場産業育成

6 次産業施設の整備を契機に、漁業を主とした第 1 次産業の「 業（なりわい）」としての可能性を高め、新規従事者の獲得も視野に入れた取り組みへとつなげていく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》
・6次産業施設 UMIKARA の整備
・市場の移転

■リーディングプロジェクト
④ 循環とつながりをテーマに、「海」を Update
⇒はもと加工販売所 /UMIKARA/ 市場・漁協移転

4）新たな交流・イノベーションの創出を図る　観光振興

6 次産業施設・スマートタウンという新たな交流拠点が整備されることから、新旧点在する資源をつなぎ、まちの回遊性や多様な観光のあり方を検討し、新たな交流とイノベーションが生まれるよう支援していく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》
・城山荘、城山公園等の再整備
・白浜グランピング
・中寄眺望広場
・若狭和田ビーチ / 脇坂公園再整備

■リーディングプロジェクト
⑤ スマートな働き方・暮らし方・生き方。新たな交流で、「シーサイドライン」を Update

5）地区の将来像を共有し、多様な行動主体がつながる場をつくる　推進体制

高浜地区が抱える様々な問題・課題を踏まえ、地元住民や活動主体の関係性を高め、地区の将来像（どういう地区を目指すのか、そのためには何をしないといけないのか等）を共有するとともに、意見交換や協働のきっかけとなる緩やかな場（プラットフォーム）をつくる。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》
・高浜地区のビジョンの共有、勉強会、ワークショップ（対話機会の創出）
・活動主体の意見交換、情報共有、連携のための場（デジタル技術の活用、空間や機会）づくり
・DX 化におけるクラウドファンディングなど参加型のまちづくり手法の活用

5.計画対象 期間・エリア

都市計画区域
用途地域
居住誘導区域

対象町有地

①旧役場跡地
②旧高浜保育所
③瑞祥苑
④中町コミュニティ広場（中町住宅跡地含む）
⑤高浜町立認定こども園・仮称）高浜公園
⑥若宮グラウンド
⑦旧教職員住宅
⑧旧若宮園
⑨中寄駐車場
⑩文化会館交差点広場
⑪中寄交差点横
⑫城山公園エリア
⑬高浜漁港エリア
⑭立石町営住宅
⑮オフサイトセンター横
⑯白浜（薗部）

＜凡例＞
- 対象町有地①～⑫、⑭～⑯
- 対象県有地⑬
- 敷地の大きな公共用地
- 開発面積の大きな民地

計画対象エリア

高浜地区の用途地域を基本に、都市計画区域内において対象と考えられる地域を含めたエリアとする。

〇高浜地区の用途地域
＋西側の町有地の活用を考慮した中寄・畑を含む
＋にぎわいの中核となる高浜漁港、城山公園を含む
＋高浜地区の基幹公園および認定こども園用地を含む

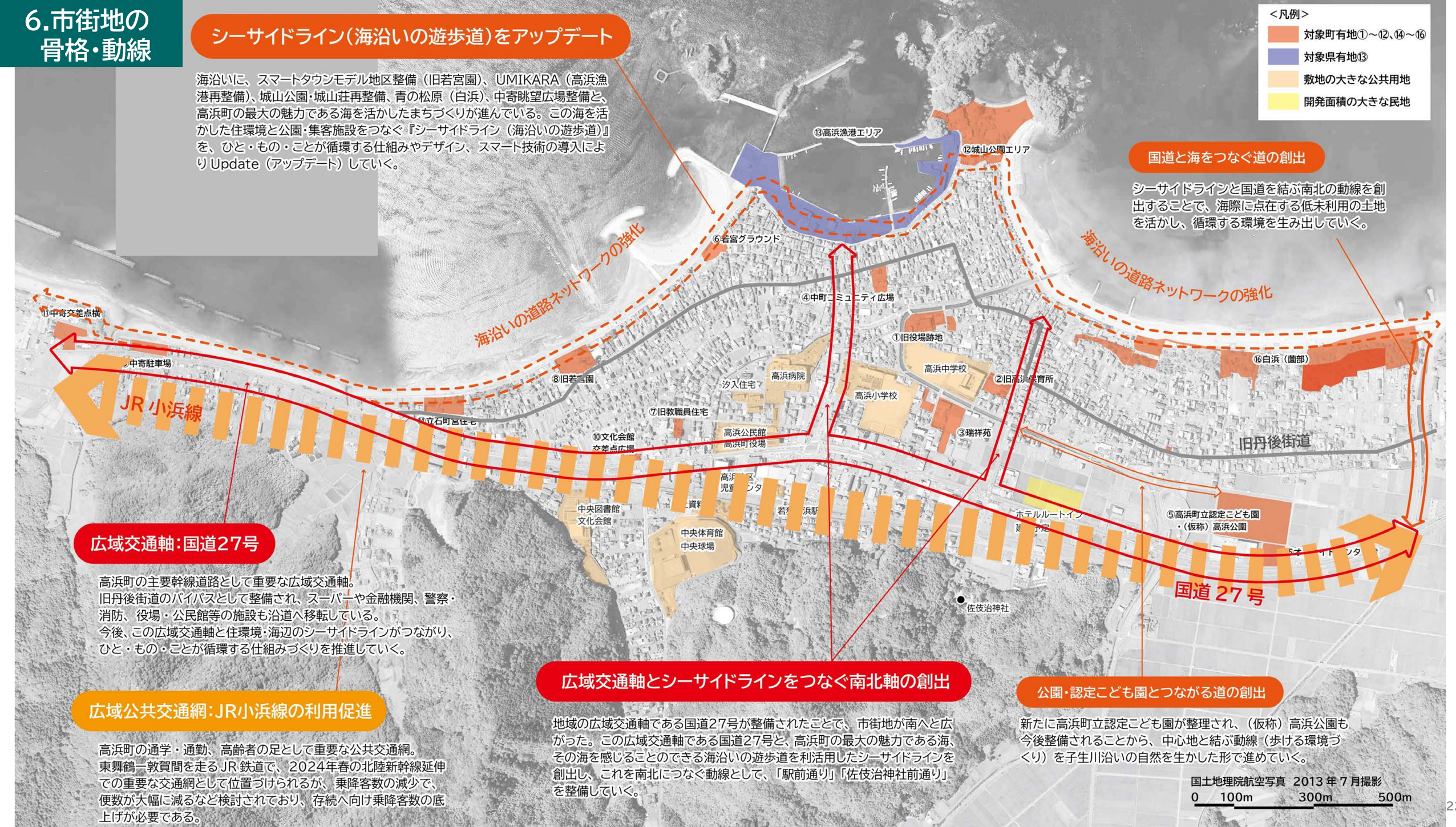
計画対象期間

令和4年4月～令和14年3月まで（10年）
※目標年次は、高浜町都市計画マスタープラン（H24～R13）と整合を図り、10年後の令和13年度（2031年度）とする。

6.市街地の骨格・動線

シーサイドライン（海沿いの遊歩道）をアップデート

海沿いに、スマートタウンモデル地区整備（旧若宮園）、UMIKARA（高浜漁港再整備）、城山公園・城山荘再整備、青の松原（白浜）、中寄眺望広場整備と、高浜町の最大の魅力である海を活かしたまちづくりが進んでいる。この海を活かした住環境と公園・集客施設をつなぐ『シーサイドライン（海沿いの遊歩道）』を、ひと・もの・ことが循環する仕組みやデザイン、スマート技術の導入によりUpdate（アップデート）していく。



国道と海をつなぐ道の創出

シーサイドラインと国道を結ぶ南北の動線を創出することで、海際に点在する低未利用の土地を活かし、循環する環境を生み出していく。

広域交通軸：国道27号

高浜町の主要幹線道路として重要な広域交通軸。
旧丹後街道のバイパスとして整備され、スーパーや金融機関、警察・消防、役場・公民館等の施設も沿道へ移転している。
今後、この広域交通軸と住環境・海辺のシーサイドラインがつながり、ひと・もの・ことが循環する仕組みづくりを推進していく。

広域公共交通網：JR小浜線の利用促進

高浜町の通学・通勤、高齢者の足として重要な公共交通網。
東舞鶴一敦賀間を走るJR鉄道で、2024年春の北陸新幹線延伸での重要な交通網として位置づけられるが、乗降客数の減少で、便数が大幅に減るなど検討されており、存続へ向け乗降客数の底上げが必要である。

広域交通軸とシーサイドラインをつなぐ南北軸の創出

地域の広域交通軸である国道27号が整備されたことで、市街地が南へと広がった。この広域交通軸である国道27号と、高浜町の最大の魅力である海、その海を感じることのできる海沿いの遊歩道を利活用したシーサイドラインを創出し、これを南北につなぐ動線として、「駅前通り」「佐伎治神社前通り」を整備していく。

公園・認定こども園とつながる道の創出

新たに高浜町立認定こども園が整理され、（仮称）高浜公園も今後整備されることから、中心地と結ぶ動線（歩ける環境づくり）を子生川沿いの自然を生かした形で進めていく。

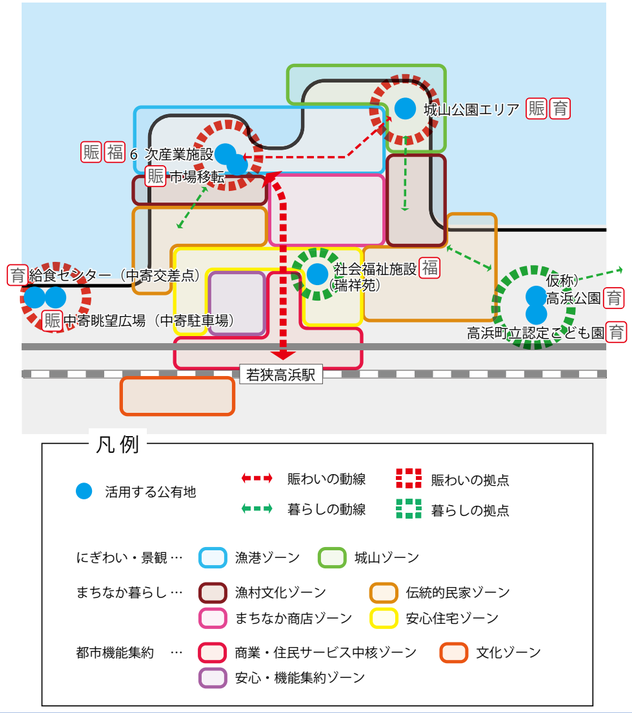
国土地理院航空写真　2013年7月撮影
0　100m　300m　500m

短期・中期・長期 段階的なまちづくり（イメージ）

Phase1　短　期　（およそ5年）

【基本的な考え方】
- 漁港ゾーンにおける６次産業施設、城山公園エリアの整備により、新たな賑わいの創出と周辺住民の生活利便性の向上が図られる。
- 認定こども園や地域福祉活動の拠点整備により、子育て層をはじめ多世代が利用できる暮らしの拠点の形成が図られる。

【展開イメージ】



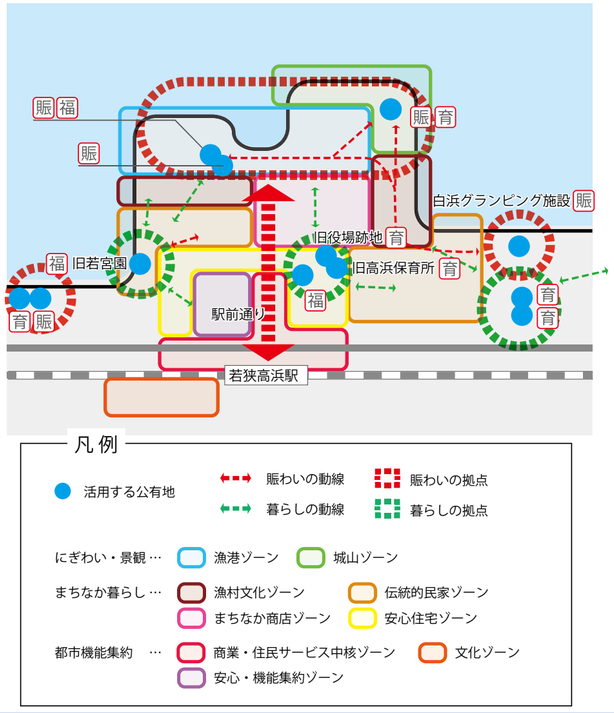
【主な事業等】

◎賑わいのある暮らし	・６次産業施設、市場移転 ・城山公園エリアの再整備 ・中寄眺望広場（中寄駐車場）
◎健康的な暮らし	・高浜町立認定こども園/（仮称）高浜公園 ・地域福祉活動の拠点整備 ・給食センター再整備

Phase2　中　期　（およそ10年）

【基本的な考え方】
- 駅前通りが南北に通る。旧役場跡等は暮らしに資する機能の導入、旧若宮園にはIoT等の導入によるスマート住宅の整備を検討する。
- 白浜グランピング施設の整備により、観光振興、町民のレクリエーションや憩いの空間の形成が図られる。

【展開イメージ】



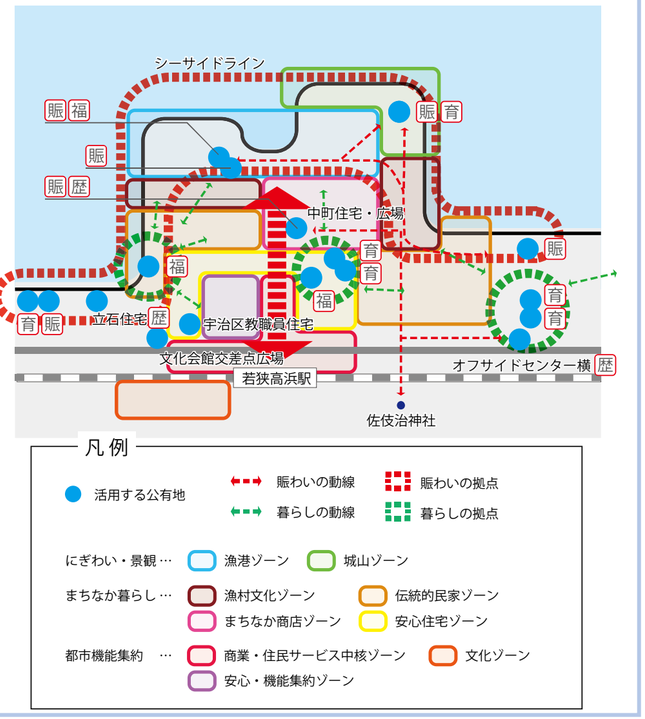
【主な事業等】

◎賑わいのある暮らし	・白浜グランピング施設の整備
◎まちの骨格となる動線	・駅前通りの整備
◎エコな暮らし	・旧若宮園でのスマートタウン整備
◎健康的な暮らし	・旧役場跡地の活用

Phase3　長　期　（およそ10年以上）

【基本的な考え方】
- ６次産業施設UMIKARAや城山公園（再整備）を核としたシーサイドラインの賑わいの創出をはじめ、密集市街地の整備、公有地を活用した事業を連鎖的に展開することで、高浜地区全体の回遊性の向上や活性化が図られる。

【展開イメージ】



【主な事業等】

◎歩いて楽しい暮らし	・シーサイドラインの活用
◎健康的な暮らし	・密集市街地の整備

※各プロジェクトの実施期間は、計画の熟度により、前後する可能性がある

Phase1　短　期　およそ5年での整備を目指すもの

【基本的な考え方】

- 漁港ゾーンにおける６次産業施設・市場の整備、城山公園の再整備により、新たな賑わいの創出と周辺住民の生活利便性の向上が図られる
- 高浜町立認定こども園や地域福祉活動の拠点整備により、子育て層をはじめ多世代が利用できる暮らしの拠点の形成が図られる

賑わいのある暮らし

6次産業施設UMIKARA

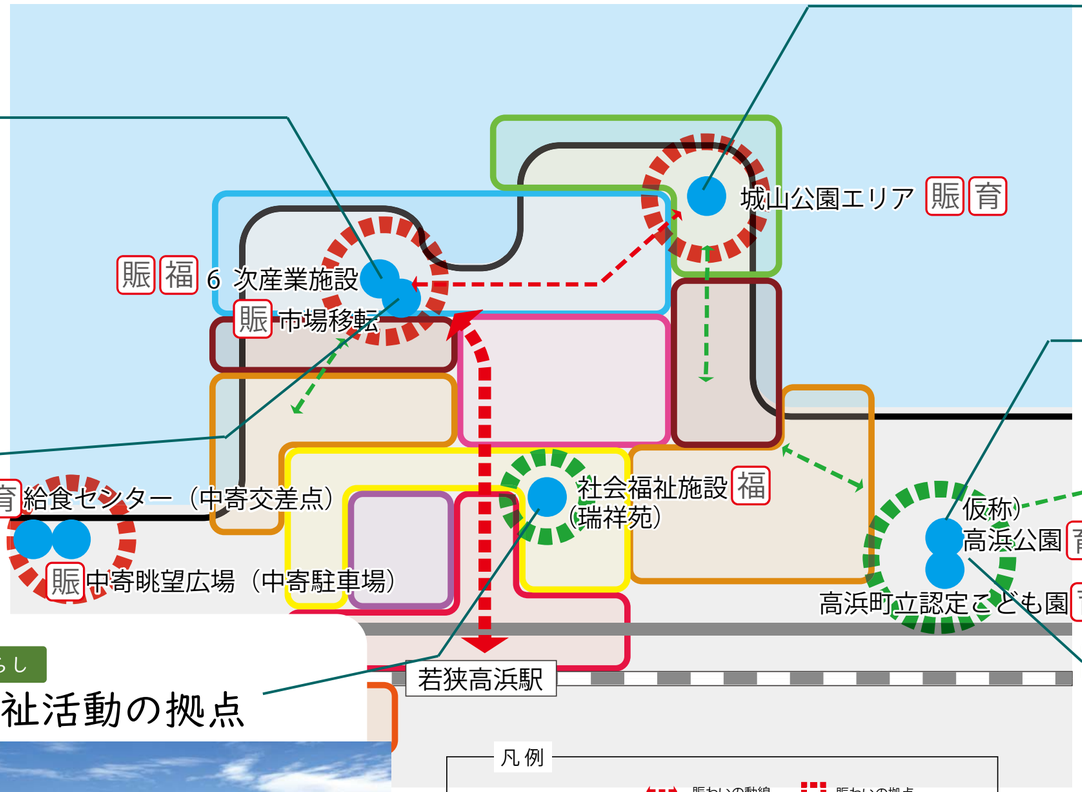
第1次産業従事者や事業者の活動の場を作るとともに、高浜の新しい賑わい拠点を目指す

持続可能な産業育成

市場移転

老朽化した漁業従事者や事業者の活動拠点を再整備し、次世代へ繋ぐ衛生管理された漁港を目指す。

社会福祉協議会や障がい福祉施設を集約化し、高齢者福祉・障がい福祉施設等が一体となった社会福祉複合施設を整備する。



健康的な暮らし

地域福祉活動の拠点

賑わいのある暮らし・健康的な暮らし

城山公園エリア

ワーケーションなど高浜町のフラッグシップとなる滞在場所を創出する

健康的な暮らし

（仮称）高浜公園

隣接する高浜町立認定こども園とともに、地域の子育て環境に対するニーズに対応する

健康的な暮らし

高浜町立認定こども園

保護者や地域の多様化するニーズや新しい時代に対応した子育て支援ができる環境を提供する

Phase2　中　期　およそ10年後の整備を目指すもの

【基本的な考え方】

- まちの骨格となる駅前通りが南北に整備され、安心安全な歩行空間が確保されると共に、人の流れが活性化する
- 旧役場跡等は周辺住民の健康的な暮らしに資する機能の導入、旧若宮園にはIoT等の技術導入によるスマート住宅の整備を検討する
- 白浜グランピング施設の整備により、観光振興、町民のレクリエーションや憩いの空間の形成が図られる

エコな暮らし

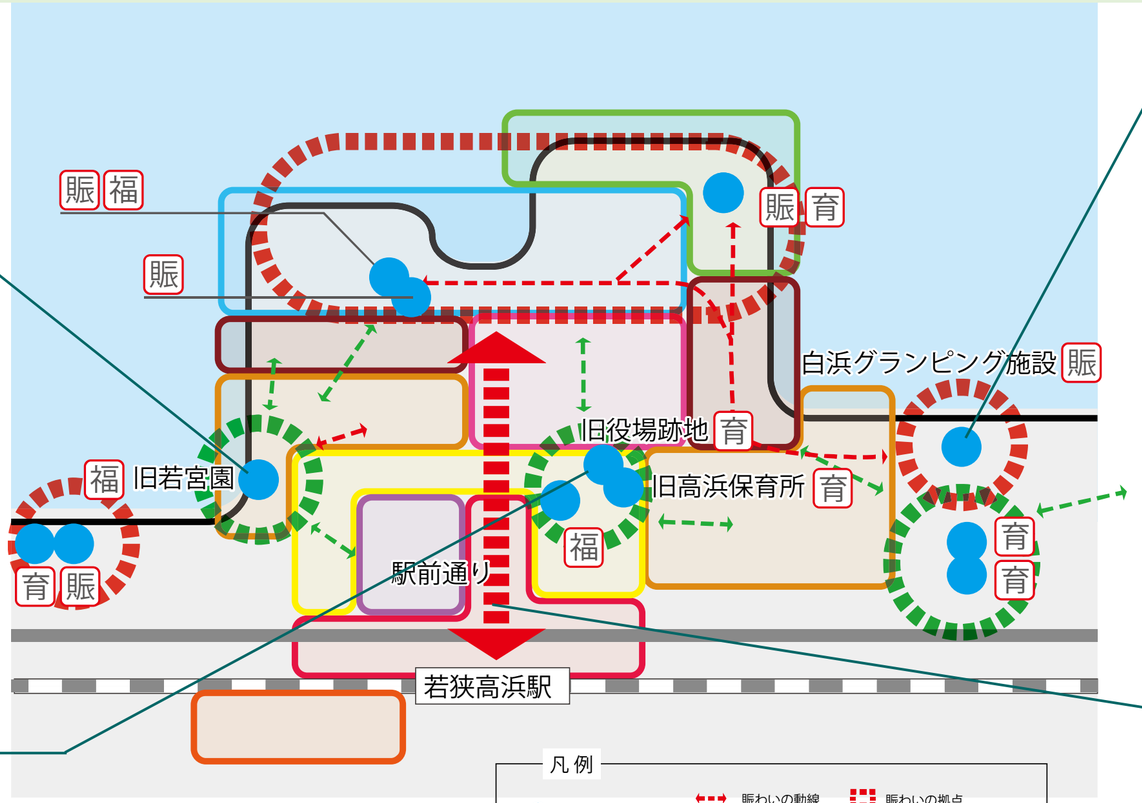
旧若宮園（スマートタウン）

町内外の人と人、企業と企業がつながる、交流・共創の場所として、コワーキング施設やスマートハウスを整備する

健康的な暮らし

旧役場跡地（まちなか居住施設）

まちなか居住の推進のため、宅地分譲および広場として整備する



賑わいのある暮らし

白浜グランピング施設

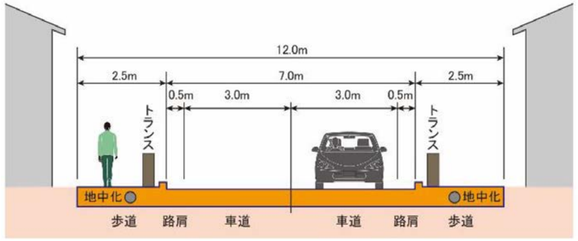
ビーチサイドのロケーションを活用し、町民や観光客たちの日常をよりよくしていく空間を提供する

まちの骨格となる動線

駅前通りの整備

若狭高浜駅から旧丹後街道までの都市計画道路が通ることで、回遊性が高まり、シーサイドラインが活性化する

◆◆標準断面図（案）◆◆



7.数値目標

指標１：交流人口

高浜漁港、城山エリアを拠点とした、文化・観光での交流人口を創出する。

令和元年(1～12月　基準年)	令和9年3月末(5年後)	令和14年3月末(10年後)
高浜町全体　783,659人	900,000人	1,000,000人
高浜地区　185,240人	210,000人	240,000人

※R1高浜地区：城山公園51,640人＋海岸グルメ101,900人＋海水浴31,700人（白浜、鳥居浜、城山、若宮）

指標２：新規出店数

高浜漁港を中心としたにぎわいゾーン、シーサイドラインでの新規出店の創出に取り組む。

令和元年度(基準年)	令和3年～8年度(5年間)	令和2～14年度(10年間)
1件	5件	10件

※はもと加工販売所（株式会社まちから）

指標３：対象エリアの人口

一貫して減少が続く人口に対し、利便性と快適さのある生活環境づくりを図り、人口減少を低減させる。

令和2年3月末(基準年)	令和9年3月末(5年後)	令和14年3月末(10年後)
4,131人	3,925人	3,710人

※人口ビジョンの目標変化率を基に設定

8.　リーディングプロジェクトの方向性

方向性1 ： 住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする【対象町有地:⑤】

高浜町立認定こども園 coco kara

■目的・方針

本こども園は未来を担う就学前児童の子育て支援の拠点として、「幼児期の児童への質の高い教育・保育の一体的提供」「保護者の就労の有無にかかわらず利用できる環境整備」「地域の子育て支援量の拡充や質の向上」「待機児童を出さないための環境整備」に対応するため、老朽化した旧高浜保育所を移転整備する。
なお、本こども園は、幼保連携型認定こども園として整備し、「教育・保育機能の充実や教育付加」「豊かな空間環境」「安全対策」「地域に開かれた多世代交流や子育て支援機能の充実」等、保護者や地域の多様化するニーズ、新しい時代に対応した子育て支援ができる環境を確保するための計画としている。

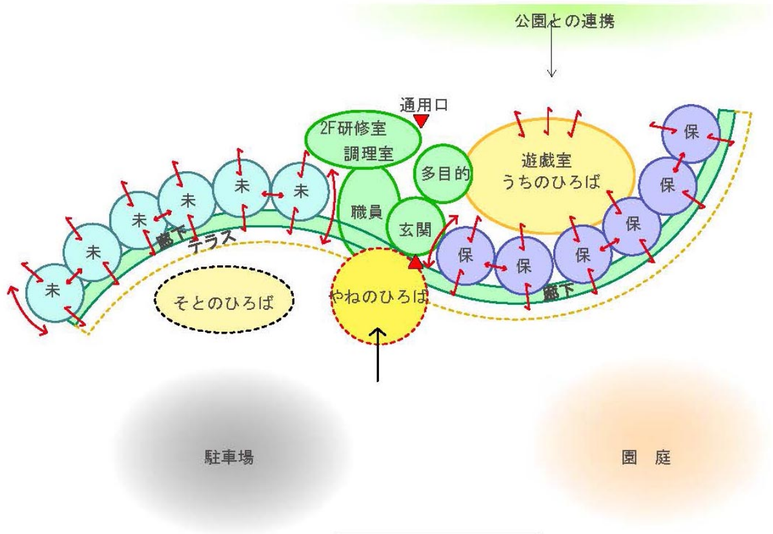
■施設概要

敷地地番	：福井県大飯郡高浜町薗部	定　　員		：140名
都市計画区域内外の別	：都市計画区域内	構　　造		：鉄筋コンクリート造　木造
地域地区の指定	：第一種中高層住居専用地域	延床面積		：2311.93㎡
主要用途	：幼保連携型認定こども園	敷地面積	（こども園）	：6914.87㎡
			（共用駐車場）	：1518.13㎡
			（合計）	：8730.00㎡

■全体コンセプト

～ひろばがつながり、回遊性を高める園舎～

・「やねのひろば」を送迎時に必ず通ることで、保護者や教員のコミュニケーションの場や情報交流の場を提供。
・「やねのひろば」の左右に未満児と以上児を明確にゾーニングし、安全な保育環境を提供。
・隣接する同じ学年の保育室が建具でつながり、フレキシブルな保育環境を提案。
・3歳未満児は保育室⇔テラス⇔未満児専用の園庭「そとのひろば」と連続的な空間構成とする。
・3歳以上児は「うちのひろば（遊戯室）」⇔保育室⇔テラス⇔園庭と開放的な建具で遊戯室から園庭まで一体的な空間とする。
・「うちの広場」から公園へ出られるなど北側の公園と連携した施設構成とする。
・「やねのひろば」「そとのひろば」「うちのひろば」がつながり、回遊性を高め、行き止まりのない園舎を実現する。
・回遊性を高めることで、異年齢児の交流を活発にするなど、園児のこころを育む施設を実現する。



コンセプトイメージ

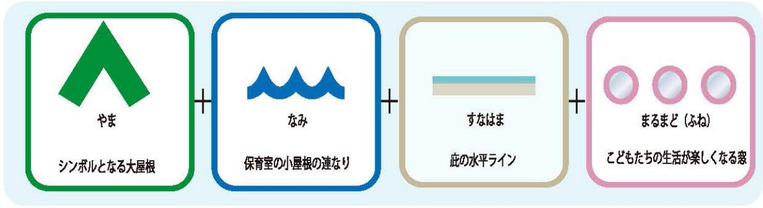
■設計内容

1.配置計画・動線計画

・公園とのつながりを考慮した配置計画とする。
・歩車分離を図り、安全な動線計画とする。
・歩行者が公園側からアクセスできる動線計画とする。
・明確なセキュリティゾーンを設定する。
・登園、降園時に保護者が担任と直接話がしやすく、より園児の状態を理解できるテラスイン形式を採用する。
　ただし、冬季等は施設内への冷気や風雨の吹込みを防止するため、下足入れを移動式として風除室を通り、玄関ホールからの登園・降園にも対応する。
　※テラスイン形式：玄関ではなく各保育室のテラスで靴を履き替え直接保育室に入る形式であり、保育士と保護者のコミュニケーションがとりやすくなる。また、玄関ホールと保育室に２ケ所必要であった下足入れを１ケ所に集約できることや、保育室 - 廊下 - テラス - 園庭と配置することにより、避難時に直接園庭に出ることができ、混雑や混乱を避けること等利点が多い。

2.外観のデザイン

山、海、浜と高浜町ならではの美しい自然やそこに浮かぶ船などをモチーフに、こどもたちの毎日の生活が楽しくなるような“まる”“しかく”“さんかく”などに形態を単純化して、外観の要素を構成し、高浜町ならではの「わが町のこども園」をめざす。
・青葉山をモチーフとした建物のシンボルとなる大屋根
・若狭湾のさざ波のような屋根の連なり
・美しい砂浜の水平ラインを思い浮かべる連続した庇



高浜町立認定こども園
機能拡充型リニューアル

高浜公園

認定こども園と隣接する
高浜地区の基幹公園

①基本コンセプト

公園に求められる役割や子育て環境に対するニーズを具体化し、また隣接する高浜町立認定こども園とのつながりを視野に入れた公園計画とするために、基本コンセプトを以下とする。

「高浜の子どもたちと共に成長する緑豊かな公園」

基本計画平面図

A-A'断面図

②整備方針

基本コンセプトを具現化するため、以下に示す整備方針に基づき公園整備を進めることとする。

●あらゆる人が気軽に利用でき、暮らしに潤いと活気を与える公園
子どもからお年寄りまで、あらゆる人がそのニーズに合わせて、憩い、安らぎ、遊び、活動できる公園として整備する。

●認定こども園とつながり、子育て、子育ちの場となる公園
隣接する認定こども園とつながり、子育て世代の交流拠点となる公園として整備する。

●健康で安全安心な暮らしに役立つ公園
誰もが安全に利用でき、過ごせ、日常的な健康増進や防災に役立つ公園として整備する。

●周辺と調和した高浜らしい、緑豊かな公園
青葉山を望み、周辺環境と調和した、緑豊かな公園として整備する。

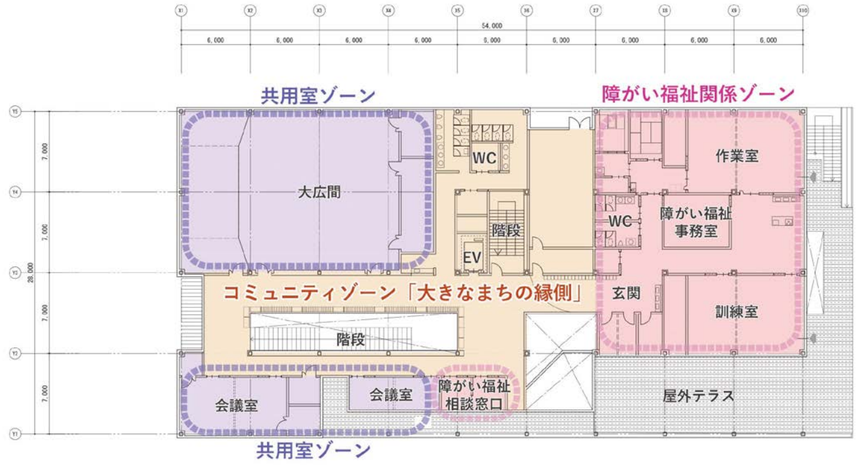
●町民と共に育ち、成長する公園
初めから造り込まず、みんなで作り育てながら、子どもたちと共に育つ公園として整備する。

令和2年10月～令和3年1月
３回のワークショップを行いながら
基本コンセプト、整備方針
平面計画をまとめました。

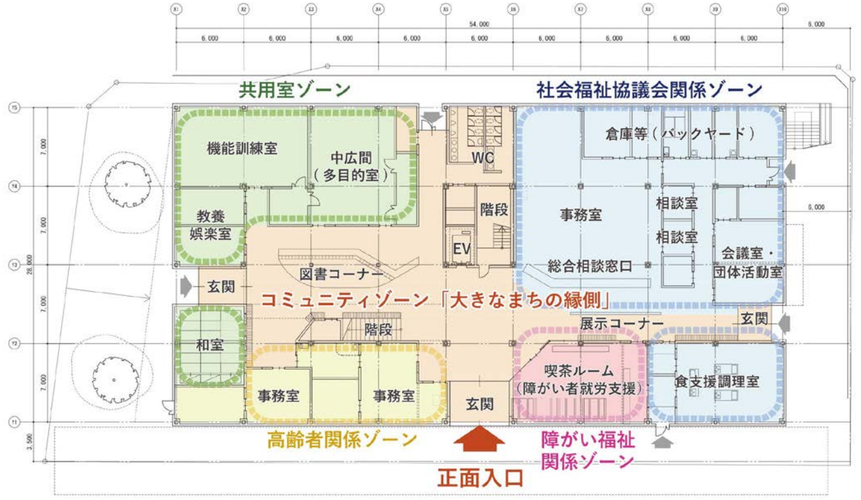
方向性1 ： 住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする【対象町有地：③】

計画地	：福井県大飯郡高浜町 宮崎 地係
敷地面積	：6,250 ㎡ （南・西駐車場含む整備全体エリア）
都市計画区域	：都市計画区域内
用途地域	：第一種中高層住居専用地域
建蔽率／容積率	：60% ／ 200%
防火地域等	：法 22 条区域
日影規制	：高さ 10m 超え（4m）4 時間 /2.5 時間
斜線制限	：道路斜線 勾配 1.25・適用距離 20m 隣日斜線 勾配 1.25・立上がり 20m 北側斜線 勾配 1.25
主要用途	：社会福祉施設
建築面積	：1,512.00 ㎡
延床面積	：2,669.00 ㎡
建蔽率	： 24.19 %
容積率	： 42.70 %
構造・規模	：鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造） 地上２階建て
駐車駐輪計画	：［自動車］ 約 147 台 （西側 63 台／南側 35 台／既設 49 台） ［自転車］ 約 20 台 ［自動二輪］ 約 6 台

■ ２階平面イメージ



■ １階平面イメージ



地域福祉活動の拠点整備

集約型リニューアル

地域福祉活動の拠点を中心地の高浜地区に移転・集約するとともに、高齢者福祉・障がい福祉施設等が一体となった社会福祉複合施設を整備する。

方向性1 ： 住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする【対象町有地：①②】

旧役場敷地利活用

分譲地＋広場
まちなか居住を推進

※まちなか居住の推進

若者世代を中心とした分譲地とまちなかの広場を軸に、定住人口の創出を図る。また、旧若宮園で取り組むスマートタウンモデルの整備を、歴史・文化を包括しつつ、まちなかへ広げていく。

広場イメージ

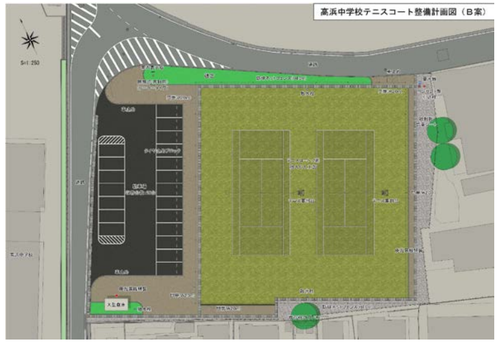
分譲地イメージ

旧高浜保育所跡地利用

高浜中学校の敷地として活用

※地域福祉活動の拠点整備とスケジュールを合わせ、テニスコートを整備。地域福祉活動の拠点整備で、高浜中学校の駐車場およびテニスコートがなくなることから、中学校横の旧高浜保育所跡地を活用し、テニスコートを２面整備する。

テニスコート　２面
中学校駐車場　２０台



方向性1 ： 住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする

◆◆シンボルロードの役割◆◆

○若狭高浜駅～高浜漁港・ＵＭＩＫＡＲＡ・城山公園を結ぶシンボルロード
○生活道路の骨格
（役場、高浜病院、高浜小学校へのアクセス）
○まちなか回遊の起点
（グリーンスローモビリティの実証実験）
○防災機能（緊急車両、避難経路）

◆◆シンボルロードとして考えること◆◆

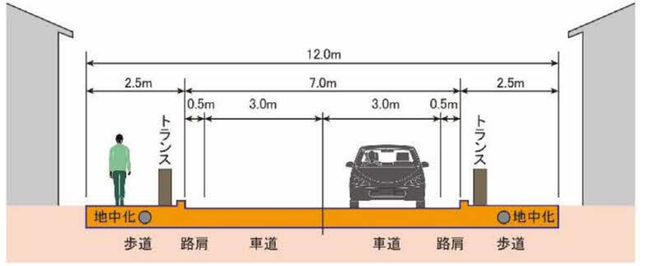
【機能面】
- ☑ 歩行者や自転車利用の安全性（バリアフリー、分離等）
- ☑ グリーンスローモビリティと一般車両との共存
- ☑ ポケットスペース（広場、ベンチ等）
- ☑ 案内機能（サイン、観光案内板等）

【景観面】
- ☑ 電線類の地中化
- ☑ 舗装や街灯などの色
- ☑ 沿道の町並み景観の調和

歩行者等交通量　推計値（立地適正化計画目標数値より算出）

●令和2年10月(平日)	令和8年10月(平日)	令和15年10月(平日)
アオキ交差点(北側断面):848人	820人	790人
高浜漁港前交差点(南側断面):286人	280人	270人
●令和2年10月(休日)	令和8年10月(休日)	令和15年10月(休日)
アオキ交差点(北側断面):440人	425人	410人
高浜漁港前交差点(南側断面):172人	165人	160人

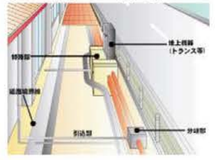
◆◆標準断面図（案）◆◆



◆◆シンボルロードのイメージアップの方法◆◆

①舗装の高質化【再】
（改良済区間との連続性を確保）

②無電柱化【再】


地中化（共同溝）

軒下配線

裏配線

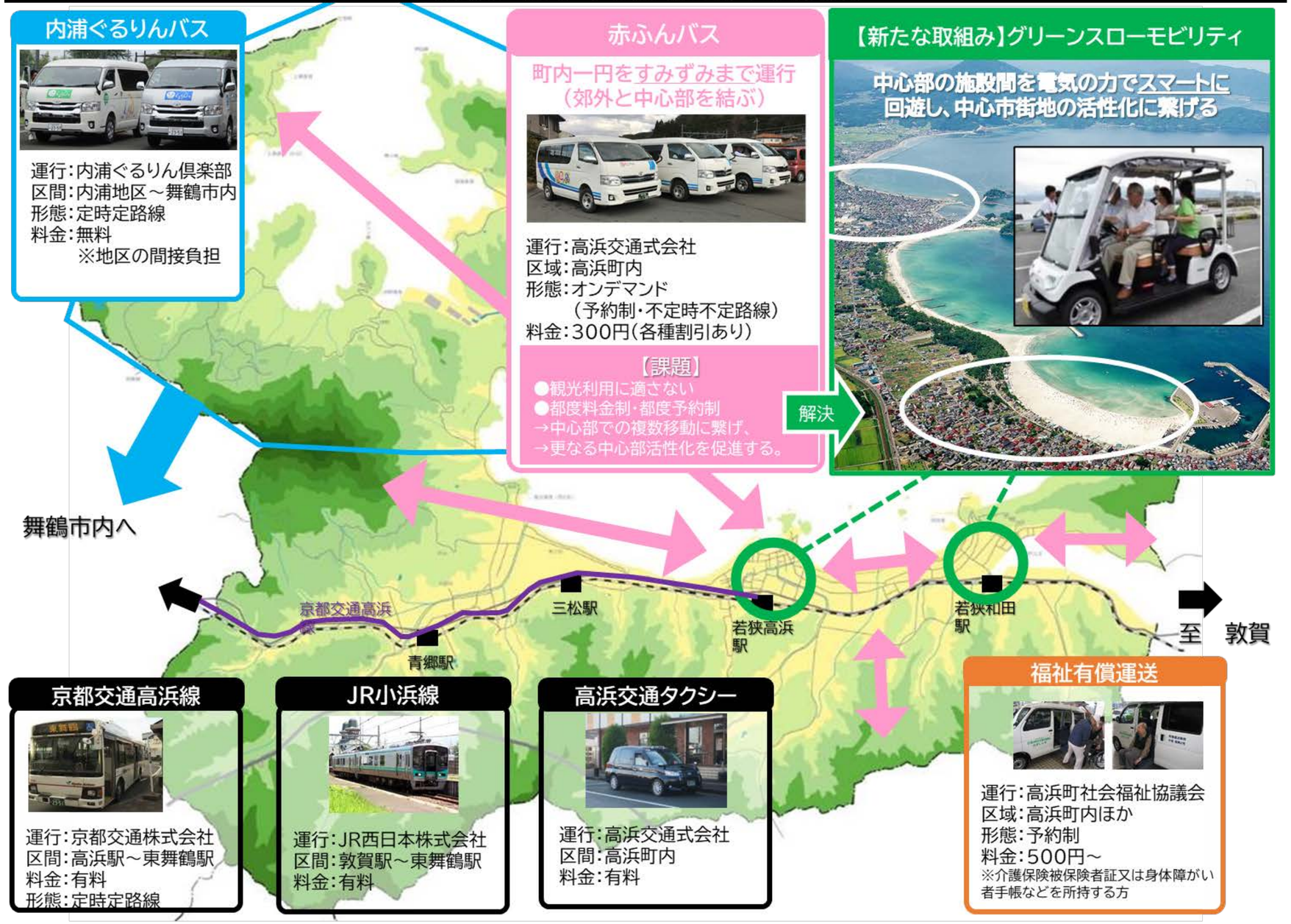
③グリーンスローモビリティ【再】
（社会実験後　→本格導入）

④街路灯、案内サイン等の統一【再】

駅前通り再整備

市街地の南北軸。
安心安全で、歩きやすい環境へ。

高浜町内の公共交通の概観



内浦ぐるりんバス

運行：内浦ぐるりん倶楽部
区間：内浦地区～舞鶴市内
形態：定時定路線
料金：無料
※地区の間接負担

赤ふんバス

町内一円をすみずみまで運行
（郊外と中心部を結ぶ）

運行：高浜交通式会社
区域：高浜町内
形態：オンデマンド
（予約制・不定時不定路線）
料金：300円（各種割引あり）

【課題】
●観光利用に適さない
●都度料金制・都度予約制
→中心部での複数移動に繋げ、
→更なる中心部活性化を促進する。

解決

【新たな取組み】グリーンスローモビリティ

中心部の施設間を電気の力でスマートに
回遊し、中心市街地の活性化に繋げる

京都交通高浜線

運行：京都交通株式会社
区間：高浜駅～東舞鶴駅
料金：有料
形態：定時定路線

JR小浜線

運行：JR西日本株式会社
区間：敦賀駅～東舞鶴駅
料金：有料

高浜交通タクシー

運行：高浜交通式会社
区間：高浜町内
料金：有料

福祉有償運送

運行：高浜町社会福祉協議会
区域：高浜町内ほか
形態：予約制
料金：500円～
※介護保険被保険者証又は身体障がい者手帳などを所持する方

二次交通

高齢者の足・観光客の足・地域の回遊性

居心地の良い、公園のような空間づくり

シーサイドライン

若狭和田から脇坂までの約８キロ続く海沿いゾーン

ひと・もの・ことの循環

次世代技術でつなぎ、新たなライフスタイルを見える化。
働き方、暮らし方、生き方を、民間活力を誘導しながら衣食住をアップデートしていく。

交流人口
高浜漁港エリア
城山エリア
白浜エリア

関係人口
和田エリア
脇坂エリア

定住人口
若宮エリア

つながりが生まれる空間づくり

海や緑、まちとの関係が深まる仕掛けをデザイン。
つながりが自然と生まれ、自律的に歩きたくなる空間へ。

賑わいと楽しさあふれる海辺

海を感じ、緑に癒され、食を堪能。
だれもが行ってみたくなる
地域アイコンの拠点創造。

高浜が有する豊かな自然を生かした開疎的ライフスタイルを創出する共創の場。自然環境に身を置くことからはじめる、生活余韻の創造。
「高浜ならでは」を提案。

交流人口から定住人口へボトムアップ。

人がまちに定着する仕組みを構築し、
多くの「つながり」創出を図る。
そして、スマートの見える化。
民間活力を生かしたライフスタイルの提案。

若狭和田ビーチ
ブルーフラッグ
キャンプ・ワーケーション
視点場・コワーキング
etc

白浜グランピング
お手軽・高級キャンプ
サーフィン・SUP
アウトドア体験 etc

城山公園城山荘再整備
長期滞在
テレワークセンター
ワーケーション etc

高浜漁港再整備
UMIKARA
市場
はもと加工販売所
etc

スマートタウンモデル整備
スマート住宅
テレワーク
ワーケーション
etc

中寄眺望広場
視点場
休憩所・案内看板
駐車場
etc

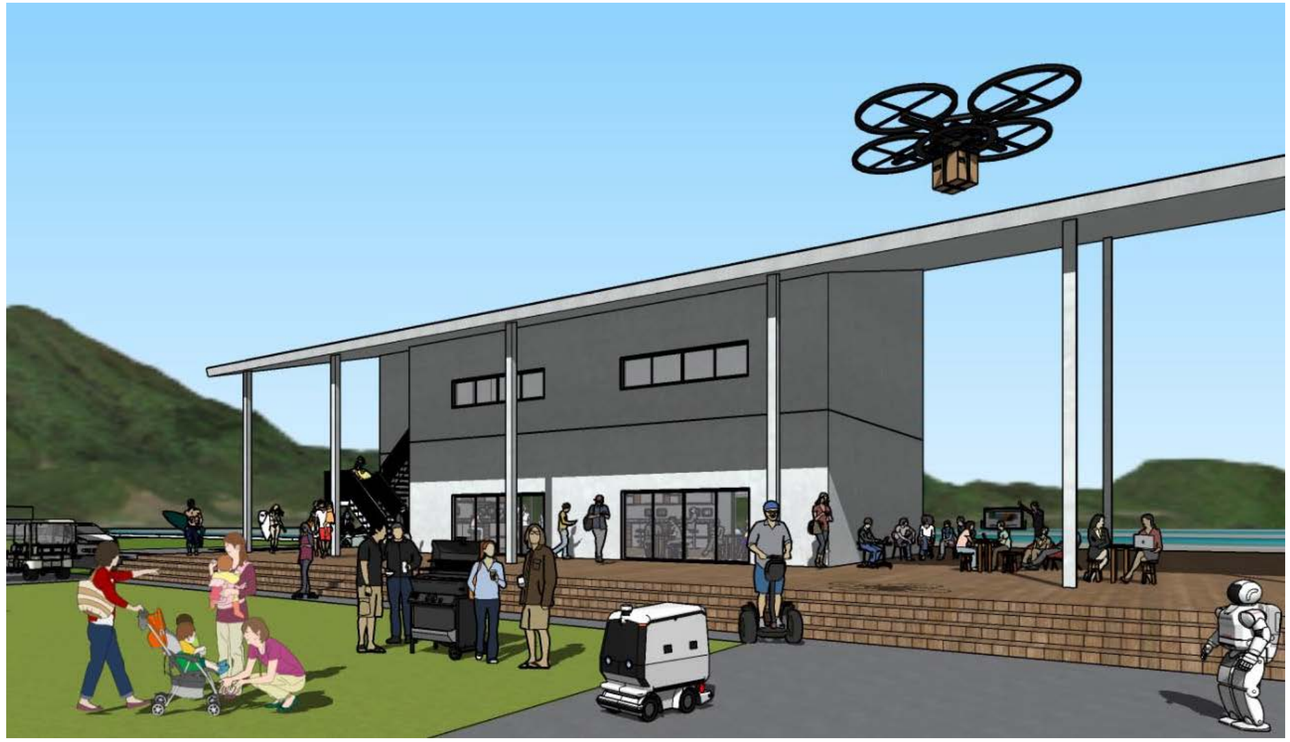
脇坂公園
芝生広場・遊具
イベントスペース
駐車場
etc

スマートなくらしを実感できる モデルエリアの形成

スマートタウンモデル整備（旧若宮園）
福井県Eコースト構想と連携

スマートな暮らし方。次世代技術で「暮らし」をUpdate

若宮海水浴場に面した住宅街エリア（古くは京阪神富裕層の別荘エリア）
町有地　約7,400㎡



・町内外の人と人、人と企業、企業と企業がつながる、交流・共創の場所
・最先端の技術と豊かな自然環境の中で、スマートな自分らしい暮らしが見つかる場所

方向性2 ： 定住人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進める【対象町有地：⑧】

①地域内外のつながり深化による共創の実現

コワーキング施設・サテライトオフィス
交流・共創のための施設整備
（カフェ、ミーティング、チャレンジショップ、キッチン、ワークスペース）

②先進的な“田舎”居住スタイルの体現

多様なライフスタイル×暮らしよさ（お試し賃貸集合住宅、戸建分譲住宅）
多様な働き方の実現（ワーケーション、二地域居住）
アクティビティコンテンツ（オンライン予約と決済）

③エネルギー利用の高度化コンテンツの実装

スマートハウス整備（省エネ、IoT、HEMS、PV）
EVカーシェア・グリーンスローモビリティ
先端通信環境整備・RE100エリア

方向性3 ： 第1次産業従事者/事業者の活動の場（拠点）をつくる【対象町有地：⑬】

高浜漁港再整備　全体パース

荷捌き施設

UMIKARA
R3.7.7　OPEN

出荷選別施設

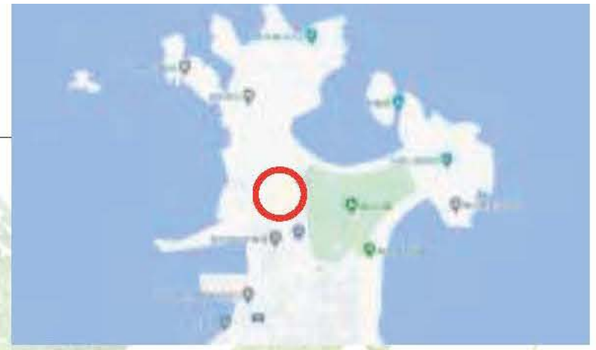
城山荘・城山公園再整備

高浜町のフラッグシップとなる滞在場所を創出

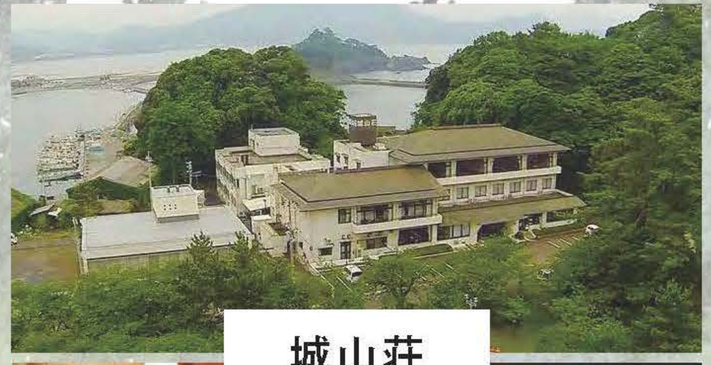
Photo : Tani Masataka

ライフスタイルトランスフォーメーション実践の場

新しい層の人々が、新しい生活をデザインする。新時代ローカルカルチャーの体系化と
開疎的ライフスタイルが創出される“空気感”を醸成させていきます。



＜ Before ＞



城山荘

＜ After ＞

新しいライフスタイルとの“発見”と、訪れた人々の“滞在体験”をデザイン。
ワーケーション拠点として発展するための施設機能を散りばめていきます。

© Junji Tanigawa & JTQ 2021

方向性4 ： 新たな交流・イノベーションの創出を図る【対象町有地：⑯】

高浜の自然を満喫できる
公園のような場。
自然とつながる
散策したくなる
滞在空間。

白浜グランピングリゾート エリアの創出

(例)家族4人 35,000円~ 手が届きやすい低価格帯で、関西圏から吸引。

あなたと、まちと、
自然が繋がる。

リゾート グランピングエリア

ビーチサイドロケーションを
最大限に活用し、
華やかで豊かな時間を提供。

町民や観光客たちの
日常をより良くしていく
空間と演出を提案する事で、
ライフスタイルと
ライフイベントに寄り添う場に。

1 宿泊・キャンプ

変化する海と空の色に身を委ね、自然と一体化できる宿泊体験。

2 農業体験

海が見えるハウスで新鮮な体験と新鮮な野菜や果物を楽しむ。

3 スパ＆シーサイドレストラン

インフィニティプールと格別な食体験により健康的で特別な一日を。

4 ウェディング

リゾ婚や滞在型ウェディングで、壮大な自然が二人の門出を祝福。

5 ワーケーションルーム

波の音をBGMにリフレッシュしながら、生産性と創造性を向上。

6 ベビースイートルーム

ベビーベットなどを備え、子どもと共に贅沢な余暇と食事を楽しむ。

RE衣食住
高浜町ライフスタイルデザイン会議

衣食住 暮らし方

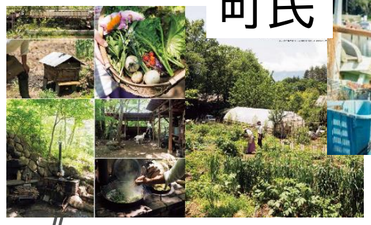
しあわせ子育て
しあわせ教育
健康のまちづくり

□保健福祉課
□高浜町立認定こども園
□和田・青郷・内浦保育所
□高浜・和田・青郷小学校
□内浦小中学校
□高浜中学校
□医療機関
□たかはま地域医療サポーターの会
□統合型クラブHIGH-BEACH
など

衣食住 働き方

wellbeingワーケーション
二地域居住・副業
空き家をリノベーションした
サテライトオフィス

□高浜町商工会
□(一社)若狭高浜観光協会
□金融機関
□民間事業者
□お宿
□体験事業者
など



町民

関係人口

専門機関
行政など

（社会人、学生、専門家など）

衣食住 生き方

生き甲斐(ikigai)・友だち
スマート＆スローライフ
パーマカルチャーな生き方
SDGs・おいしい循環

□高浜まちづくりネットワーク
□NPO法人なかまっち
□高浜明日研究所
□地域商社　株式会社まちから
□ハーバルビレッジ
□高浜まちなか交流館
□オープンガーデンAoba
□やまぼうしの会
□おやジィーの会
□観自庵プロジェクト
□金融機関
など

⇒各種事業へ反映

⇒SDGsの見える化、共有、学び、実践へ

高浜らしい衣食住。ライフスタイルを生み出していく場。

大学生
（関係人口）

町内各種団体・小中高校・企業・個人

社会人
（関係人口）

参画

参画

参画

RE衣食住
高浜町ライフスタイルデザイン会議

〇〇大学 ＋ 町内各種団体・小中高校・企業・個人 ＋ 企業 社会人

講師陣による
講義・学び

全体講義
SDGs・DX
Wellbeing・ジェンダー
伝え方 etc

衣食住
働き方
ワーケーション
二地域居住
副業･ものづくり

衣食住
暮らし方
住まい方
しあわせ子育て･教育
健康のまちづくり

衣食住
生き方
生き甲斐･スローライフ
パーマカルチャーな生き方
おいしい循環

REライフスタイルBOOK
（子ども・大人編）

タブロイド紙
映像
WEB記事

SNS発信

アップデート・プロジェクト創出

サスティナブルビジョンの提言など

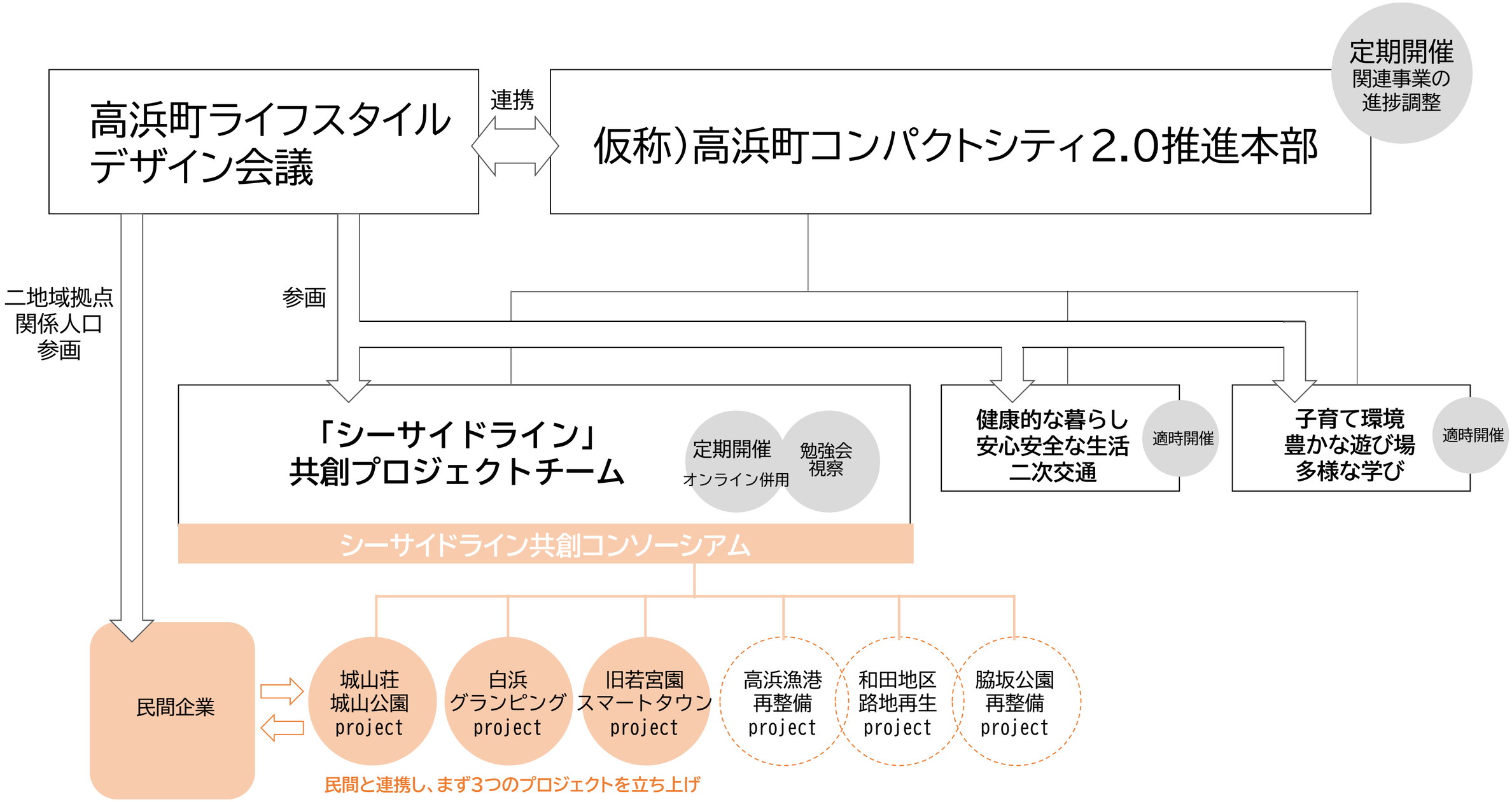
ブルーフラッグ・商品開発・テレワーク・副業・住居・子育て・教育・地域医療・パーマカルチャー・おいしい循環・災害支援・エネルギー・人材育成・SDGs・DX　などなど

Social Well-being Fes
イベントで
発表・見える化

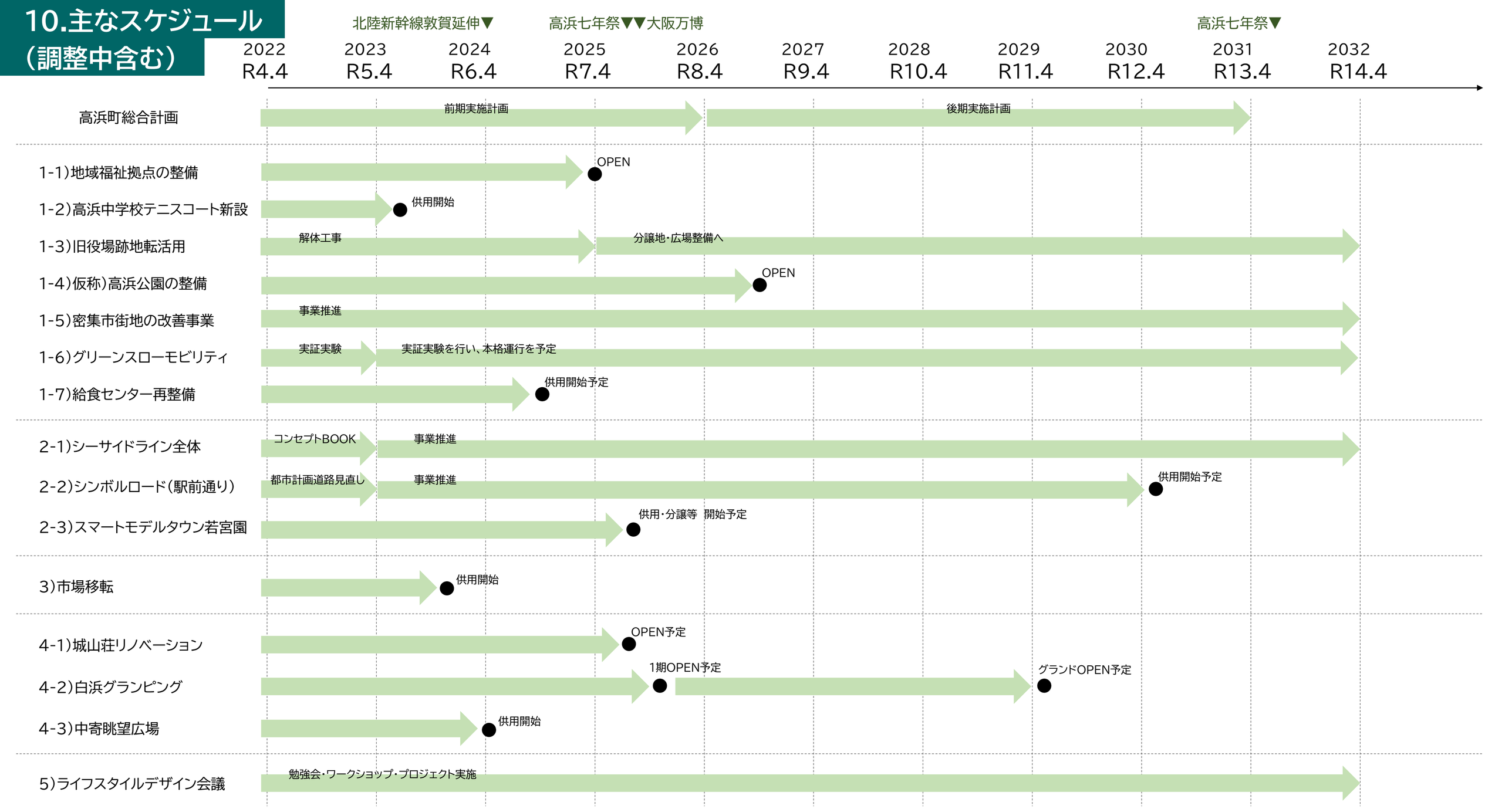
シーサイドライン等
行政事業へ
反映

ふるさと納税・ｸﾗｳﾄﾞﾌｧﾝﾃﾞｨﾝｸﾞの活用
まちづくり基金の設置

9. 推進体制


高浜町ライフスタイル
デザイン会議
連携
仮称）高浜町コンパクトシティ2.0推進本部
定期開催
関連事業の
進捗調整
二地域拠点
関係人口
参画
参画
「シーサイドライン」
共創プロジェクトチーム
定期開催
オンライン併用
勉強会
視察
健康的な暮らし
安心安全な生活
二次交通
適時開催
子育て環境
豊かな遊び場
多様な学び
適時開催
シーサイドライン共創コンソーシアム
民間企業
城山荘
城山公園
project
白浜
グランピング
project
旧若宮園
スマートタウン
project
高浜漁港
再整備
project
和田地区
路地再生
project
脇坂公園
再整備
project
民間と連携し、まず3つのプロジェクトを立ち上げ

10.主なスケジュール（調整中含む）



※各プロジェクトの実施期間は、計画の熟度により、前後する可能性がある

10.事業一覧（調整中含む）

1）住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする

分野	事業名	対象町有地	これまでの取組／今後の方向性・方針
1.住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする	**1）地域福祉拠点の整備**	③瑞祥苑 高浜中学校テニスコート	・平成30年度に基本構想を策定し、地質調査、検討委員会、そして令和3年度に基本設計を実施。 ・令和7年春の福祉拠点としての供用開始を目指し、実施設計、新築工事などを進めていく。
	2）高浜中学校テニスコート新設	②旧高浜保育所	・令和3年度に、旧高浜保育所跡地での実施設計を実施。 ・令和4年以降に、福祉拠点の新築工事に合わせ、旧高浜保育所解体、高浜中学校テニスコート新設に向け取り組んでいく。
	3)現在利用されている高浜中学校送迎用の駐車スペースの確保	③瑞祥苑関係	・現駐車場の代替として、旧高浜保育所跡地に駐車場（20台）を整備予定。 ・高浜中学校の送迎等の一時利用については、高浜小学校グラウンド横の駐車場の共同利用を予定。
	4）旧役場跡地に係る撤去および活用計画 ①旧庁舎撤去 ②利活用計画	①旧役場跡地	・令和2年度より旧庁舎活用の検討をスタート。 ・居住誘導区域内でのまちなか居住推進エリアとして、分譲地と広場整備を軸に、定住人口の創出を図り、旧若宮園でのスマートタウンモデルの取り組み、歴史・文化をつなぐまちづくりをまちなかへ広げていく場所として進めていく。 ・令和5・6年度に旧庁舎解体工事を実施予定。
	5）高浜保育所移転計画 **（高浜町立認定こども園計画含む）**	⑤高浜町立認定こども園	・令和元年度より設計業務を進め、令和2年秋より本体工事。 ・令和4年4月開園。
	6）仮称）高浜公園の整備	⑤仮称）高浜公園	・令和2年度、住民ワークショップを行いながら基本計画を策定。 ・令和4年度より整備検討委員会にて内容の具体化を図りながら、令和8年夏前の供用開始を目指す。
	7）密集市街地の改善事業 **防災道路等の整備含む**	－	・令和3年度、塩土区において住民との意見交換会を実施。 ・令和4年度以降も引続き塩土区民と議論を重ね、構想の熟度を高めていく。 ・令和5年度以降、地元との意見交換を踏まえ、計画策定及び事業化を推進する。
	8）グリーンスローモビリティ事業 **まちなか回遊性・二次交通**	－	・令和3年度、実証実験を実施。 ・令和4年度、前年度の実証実験の結果を踏まえ、地区、ルート、時刻表を見直した形で実証実験を継続し、令和5年度以降の本格運行へ向け検証を行う。
	9）中町コミュニティ広場	④中町コミュニティ広場	・令和3年度、老朽化した中町住宅を撤去し、駐車場として整備。 ・まちなかの駐車場として活用を図りながら、広場としての利活用を検討していく。
	10）文化遺産保存伝承施設整備事業	⑮オフサイトセンター横	・高浜町立認定こども園周辺工事とあわせ、周辺道路の拡幅工事を実施。 ・令和4年度設計、令和5年度に新築工事を進め、高浜七年祭等の練習場として整備する。
	11）3区合同コミュニティセンター	⑭立石町営住宅	・3区（立石、畑、中寄）合同の集会所として整備を検討。 ・令和5年度の供用開始を目指し整備する。
	12）宇治区教職員住宅の活用	⑦旧教職員住宅	・一時的措置として、新型コロナウイルス感染者等対応用に施設を利用できるように改修。 ・今後、新型コロナ感染症の状況を注視しつつ、利活用について検討していく。
	13）給食センター再整備	⑪中寄交差点横	・老朽化した給食セターの改善へ向け、令和2年度より学校給食センター再整備検討委員会を設置し、検討を進めてきた。 ・令和6年度中の学校給食センター再整備を目指し事業に取り組む。
	14）若宮グラウンド	⑥若宮グラウンド	・これまでグランドゴルフ場や駐車場として利用。 ・今後、シーサイドライン環境整備や密集市街地の改善事業のため、公共事業に供する公共空地としての利活用を検討していく。

2）定住人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進める

分野	事業名	対象町有地	これまでの取組／今後の方向性・方針
2.シーサイドライン全体	**1）和田～高浜～脇坂までの海沿いの遊歩道の活用**	－	・約8キロの自転車・遊歩道として使われている。高浜漁港の再整備とあわせ、漁港道路を再整備。若宮は一部道路化。城山から鳥居浜は車道の乗入れができる。 ・シーサイドラインの具体的なイメージを共有し取りまとめながら、各拠点整備を進め、合わせて広域のサイクリングロードとしての再整備や道路、園路としての利活用を進めていく。
	2）都市計画道路見直し **高浜駅前通りの拡幅**	－	・令和3年度駅前通り（県道）の沿道地権者に対して、事業の説明と意向確認を実施。また、現状把握のため交通量調査を実施した。 ・前年度の結果を受け令和4年度以降は、より具体的な事業化を目指し福井県と協議を進め、事業を進めていく。
2-1.定住人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進める	**1）海辺暮らしのモデルエリアとしてのスマートタウン（エコビレッジ）**	⑧旧若宮園	・スマートなくらしを実感できるモデルエリアの形成を目指し、旧若宮園に町内外の人と人、人と企業、企業と企業がつながる、交流・共創の場所（コワーキング施設、サテライトオフィス、ワークスペース等）、最先端の技術と豊かな自然環境の中で、スマートな自分らしい暮らしが見つかる場所（省エネやICT技術を取り入れたスマートハウス（お試し賃貸住宅、分譲住宅））を整備する。 ・令和3～4年度、計画策定、事業者・地元調整。令和5年度以降、設計・工事等。
	2）旧役場跡地に係る撤去および活用計画（再掲） ①旧庁舎撤去 ②利活用計画	①旧役場跡地	【再掲】 ・令和2年度より旧庁舎活用の検討をスタート。 ・居住誘導区域内でのまちなか居住推進エリアとして、分譲地と広場整備を軸に、定住人口の創出を図り、旧若宮園でのスマートタウンモデルの取り組み、歴史・文化をつなぐまちづくりをまちなかへ広げていく場所として進めていく。 ・令和5・6年度に旧庁舎解体工事を実施予定。
	3)高浜まちなか交流館	－	・平成29年度に施設改修が終了し、平成30年度より中心市街地の活性化を目的に運営を開始。また、令和2年度からは情報通信技術を活用した働き方推進、起業創業人材育成支援という新たな目標を掲げ運営している。 ・今後も情報通信技術を活用した働き方推進、まちなか交流活動支援、起業創業人材育成支援の拠点とした施設運営を継続し進めていく。
	4)旧京都電燈高浜営業店	－	・平成17年に設立しまちづくり団体の拠点として活用をスタート。ボランティアガイドやまちづくりイベントに取り組み、歴史・文化を継承する観光まちづくりの拠点。登録有形文化財。 ・今後も継続して、建物の保存活用を含め、歴史・文化を継承する観光まちづくりの拠点としの活用を推進する。

3）第1次産業従事者/事業者の活動の場（拠点）をつくる

分野	事業名	対象町有地	これまでの取組／今後の方向性・方針
3.第1次産業従事者/事業者の活動の場（拠点）をつくる	**1）6次産業施設UMIKARA整備**	⑬高浜漁港エリア	・通年型への転換と海際のにぎわいの最大拠点、稼ぐ力として、令和3年7月にUMIKARAがオープンした。10月にはグッドデザイン賞（商業施設部門）を受賞。 ・令和4年度以降、集客状況を見ながら第2期工事を検討。
	2）漁協市場の移転 ※移転後の跡地利用含む	⑬高浜漁港エリア	・令和3年度より老朽化した漁協市場の移転、新築工事を塩土エリアにて実施中。令和5年の秋頃の供用開始を目指す。 ※移転後の事代エリア跡地利用は検討中。

4）新たな交流・イノベーションの創出を図る

分野	事業名	対象町有地	これまでの取組／今後の方向性・方針
4.新たな交流・イノベーションの創出を図る	**1）城山荘改修**	⑫城山公園エリア	・高浜町の核となる滞在施設整備として、民間活力を導入した施設整備を検討してきた。 ・令和4年度以降、民間事業者を募集し、民間事業者による既存施設のリノベーションを実施予定。令和7年中ごろのリニューアルオープンを目指す。
	2）城山公園再整備	⑫城山公園エリア	・これまで城山荘のリニューアルと合わせ、まちの顔となる公園の再整備を検討してきた。 ・令和4年度以降、景観伐採整備、再整備および管理手法の再検討を進めていく。
	3）白浜グランピング	⑯白浜（薗部）	・令和3年度より、シーサイドラインの自然環境を活かした滞在拠点となる施設づくりを検討。 ・令和4年度以降、整備概要、調査を行い、具体化へ向けて事業を進めていく。
	4）中寄眺望広場	⑨中寄駐車場	・これまで県道と国道との交差点改良工事にあわせ、国道27号から海が見える眺望公園としての整備を検討してきた。 ・令和4年度以降、用地、設計、工事を行い、令和6年度での供用開始を目指す。
	5）文化会館交差点口広場	⑩文化会館交差点広場	・令和4年度以降、広場の今後の在り方について検討していく。
	6）若狭和田ビーチ	－	・平成28年、国際環境認証ブルーフラッグをアジアで初めて取得（単年ごとの認証）。地域住民と一体となった自然環境の維持に取り組んできた。 ・今後も地域住民、関係団体と連携し、引き続き認証取得を目指すとともに、100年後も美しい海岸であり続けるための維持に努める。
	7）脇坂公園	－	・これまで、脇坂公園の有効活用について検討を進め、令和3年度より西側の公園整備を実施。西側については、令和4年度での工事完了予定。 ・今後、西側の利用状況を見つつ、令和5年度以降、東側についての整備内容の検討を行っていく。

5）地区の将来像を共有し、多様な行動主体がつながる場をつくる

分野	事業名	対象町有地	これまでの取組／今後の方向性・方針
5.地区の将来像を共有し、多様な行動主体がつながる場をつくる	**1）RE衣食住 高浜町ライフスタイルデザイン会議**	－	・総合計画の目標年である2030年に向け、SDGsの具体化を一層促進していく必要がある。 ・特に、①DX、IoTなどデジタル技術の推進、二地域居住・テレワーク・副業などの働き方、②健康のまちづくり、幸せな子育て・教育環境づくりなど暮らし方、そして③循環型の暮らしや生き甲斐づくりなど、生き方そのもの。こうした新たな働き方、暮らし方、生き方を含めた高浜町の未来のライフスタイルを、住民ワークショップ・勉強会等を通じ、将来ビジョンを共有する場をつくると共に、提案する機会、実証する機会の創出を図っていく。
	2）発表の場づくり 衣食住などライフスタイルの学び・発表の場	－	・高浜町でのSDGs活動、働き方、暮らし方、生き方のモデルとなるような活動を紹介し、また講演会などの新たな学びの場を毎年1回以上開催していく。
	3）住民交流拠点「公民館」の活用	－	・継続した公民館講座を通じて、自主サークルの立ち上げを支援し地域活性化につなげる。 ・地域での文化祭の開催やイベントの支援など、地域団体との協働により活動拠点として利便性を向上させる。

R2.3　議会付帯決議：旧役場跡地の活用を含め、高浜地区にある町有地の今後の方針を示すこと

R2.4～5
- 市街地事業の洗い出し・整理・調整会議
- 担当課長、担当者会議
- 3役会議

R2.6～7
- 高浜地区市街地基本構想検討

高浜地区市街地基本構想策定
- 現状、課題、将来像、基本方針、対象エリア、指標、17事業の方向性
  スケジュール、概算試算

※アイデアベースなどもあり、内部資料として活用

R2.7　高浜地区市街地基本計画検討スタート

R2.8～9

関係者ヒアリング
- 高浜町商工会、高浜明日研究所
- 若狭高浜観光協会
- NPO法人なかまっち
- 株式会社まちから（地域商社）
- 株式会社うみから
- 高浜まちづくりネットワーク

R2.10～R3.2
- 福井県等上位計画整合調整
- 総合計画前期実施計画との整合調整
  都市計画マスタープラン、立地適正化計画等関連計画との整合
- （仮称）高浜公園ワークショップ3回 10月・11月・1月
  公園アンケート調査 12月
- 関連事業：福祉拠点 認定こども園 UMIKARA建設 ｸﾞﾘｰﾝｽﾛｰﾓﾋﾞﾘﾃｨ スマートタウン等

R3.3　都市計画マスタープラン戦略会議意見照会

R3.5-6
- 高浜地区市街地活性化基本計画　骨子案
  将来像・基本方針・課題解決へ向けた方向性
  ゾーニング図・数値目標
  リーディングプロジェクト（素案）
- 高浜町議会 説明
- 県要望

R3.7-
- 関係者説明 ヒアリング
  - 高浜地区委員会
- 庁内会議
  関係各課 意見交換 事業調整
- 関連事業
  - 福祉拠点 基本設計
  - 旧高浜保育所跡地 利活用検討（テニスコート設計）
  - グリーンスロー モビリティ 実証実験
- シーサイドライン検討
  - 民間連携
    自然地区・史産地区・未来地区
    UMIKARA拠点誕生
    漁港再整備工事
    城山荘・城山公園検討
  - スマートタウン 検討業務（民間連携）
  - 白浜グランピング検討（民間連携）
- まちづくり事業検討
  - 健康のまちづくり
  - 幸せ子育て・教育プログラム試行
  - SDGs勉強会　など

R4.1　都市計画マスタープラン戦略会議意見照会

R4.2　高浜地区市街地活性化基本計画（案）　取りまとめ

R4.3　第1回ライフスタイルデザイン会議（町民との意見交換会）

R4.4　高浜地区市街地活性化基本計画　公表

高 浜 町

高浜町　高浜地区市街地活性化基本計画

発　行　令和４年４月２５日
発行者　福井県高浜町
編　集　総合政策課
〒919-2292　福井県大飯郡高浜町宮崎86-23-2
TEL　0770-72-7711（直通）
FAX　0770-72-2889
E-mail　seisaku@town.takahama.fukui.jp